

第4章

「授業改善のためのアンケート」 (個別型)の調査結果

I はじめに

今年度の「授業改善のためのアンケート」(個別型)は、本年1月から2月上旬にかけて、実施を希望する教官によって行われた。但し、経済学科では年度当初より学科内で検討されてきた実施計画に基づき、全個別科目を対象にアンケートを実施している。非常勤講師担当科目は除外した。質問票は、自己評価委員会で原案を作成のうえ、学内の検討を経て確定された。経済学科で使用された質問票は、学科内で決定されたものであるため、他学科等使用のものとは質問構成に多少の違いがある。(章末の参考資料1, 2)

先ず、アンケートが実施された科目数を見ると、経済学科36科目(うち昼間コース26科目, 夜間主コース10科目), 商学科19科目(同, 13科目, 6科目), 企業法学科24科目(同, 16科目, 6科目), 社会情報学科24科目(同, 14科目, 10科目), 一般教育等24科目(同, 18科目, 6科目), 言語センター58科目(同, 52科目, 6科目)となっており、合計では、独自の調査を行なった経済学科以外で149科目(同, 113科目, 36科目), 経済学科を含めると185科目(同, 139科目, 46科目)がアンケート調査の対象となった。

これを実施率で見ると、科目数ベースでは、商学科79%, 企業法学科92%, 社会情報学科71%, 一般教育等73%, 言語センター62%となっている。また、教官数ベースでは、商学科75%, 企業法学科81%, 社会情報学科73%, 一般教育等80%, 言語センター76%となっている。¹経済学科は常勤教官担当科目については実施率は100%となる。²

自己評価委員会作成の質問票は、アンケート結果の分析・利用の便宜を考慮し、質問項目を統一化している。とはいえ、講義、語学、実技といった授業のタイプごとに、同じ狙いをもった質問であっても、適切な文章表現が異なることもありうる。そのため、質問票は「講義型」、「語学型」、「実技型」の三通りを作成したが、回答選択肢の構成は標準化し、結果の解釈で困難が生じることのないように配慮した。

以下では、まずアンケート結果の概要を報告したあと、今回の試行を踏まえて、今後の検討が必要と思われる点について、述べることにする。

¹科目数ベースとはアンケート配布科目数でアンケート実施科目数を除いた値。教官数ベースとはアンケート配布教官数でアンケート実施教官数を除いた値。

²担当教官が海外滞在中などの理由で閉講となっている科目は計算から除外した。

II アンケート結果の概略

1 入学年次別構成：質問 I-(2)

回答した学生達の入学年次別（学年別）構成をコース別，学科等別に概観しておこう。

図1は章末の「参考図」から再掲したものであり，各科目の回答者に占める97年入学者の構成比を示したものである。

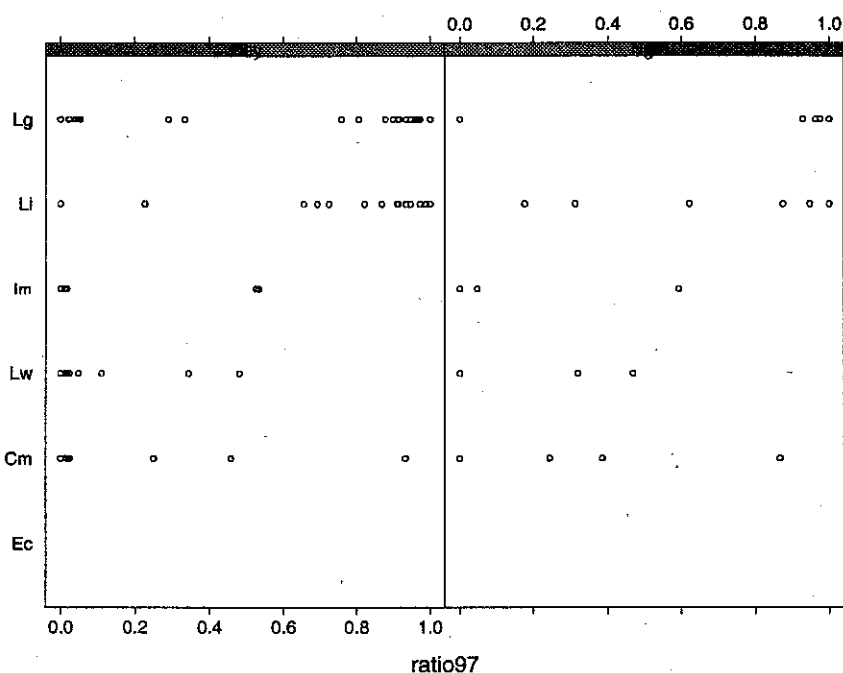


図1：コース別学科別97年入学者の比率（再掲：章末第1図）

表は左右に区分されており，左側が昼間コース，右側が夜間主コースに対応している。表側には学科が順に示されている。上から順に，“Lg”は言語センター，“Li”は一般教育等，“Im”は社会情報学科，“Lw”は企業法学科，“Cm”は商学科，“Ec”は経済学科を表している。また，構成比の目盛りが左右の各コースの表下，表上に刻まれているのが認められよう。本図の形式は，後出する箱型図とともに，この報告書で一貫して利用しているものであるため，多少詳細に図の示す内容について，説明しておく。

図1を見ると（一つ一つの○が個別の科目を表している），言語センターの科目は概ね97年入学者の比率が高いが，中には1年生の比率が非常に低い科目もあることが，視覚的にとらえられる。夜間主コースも同じ傾向を示している。一般教育等の科目では，一，二の例外を除き，1年生の構成比が全体的に高いことが分かる。夜間主コースについてはそのような傾向はない。商学科，企業

法学科，社会情報学科は同じようなパターンを示しており，多くの科目で97年入学者の比率は低い。これは新入生に配当されている専門科目が少ないので当然といえる。夜間主コースは特に顕著な傾向はみられない。³

同様に，章末第2図～第5図から認められる特徴をあげると，

- (i)96年入学者（2年生）の比率を見ると（第2図），商学科，企業法学科，社会情報学科については区々様々である。語学，一般教育等は高い科目と低い科目に分かれているようである。この傾向は夜間主コースについても見られる。
- (ii)95年入学者（3年生）の比率を見ると（第3図），言語センター，一般教育等と商学科，企業法学科，社会情報学科の間には明瞭な違いが認められる。前者，特に一般教育科目で3年生の占める比率はいずれも20%以下である。それに対して，後者3学科では大半の科目で3年生が過半を占める。語学科目は，3年生の比率が低い傾向があるが，必ずしもそうとは言い切れず，3年生が過半を占めている科目もいくつか散見される。一方，夜間主コースでは異なった傾向が認められる。語学科目で当該年次入学者の占める比率は低い。商学科，企業法学科，社会情報学科で3年生の占める比率は必ずしも高いとは言えない。
- (iii)94年入学者（4年生）の比率を見ると（第4図），どの学科等についても過半を占める科目はなく，概ね20%以下の割合を占めるに過ぎない。語学，一般教育科目で4年生の占める比率が低いことは予想されるところだが，商学科，企業法学科，社会情報学科の科目についても，回答者の中に4年生が20%未満しかいない科目が多いという事実は，多少の驚きに値する。就職活動前に所要単位を取得している学生の多いことも憶測させるが，この点も含め，背景となる理由を吟味する必要がある。商学科，企業法学科，社会情報学科の科目と同程度の高さで，語学科目に4年生が見られるのは興味深い。
- (iv)93年以前入学者の比率を見ると（第5図），昼間コースではいずれの学科等においても5%未満の科目が多い。それに対して夜間主コースでは5%～10%の科目が多いようである。どの学科で比率が高いかという点については，確かな傾向は浮かび上がってこないが，昼間コースでは一般教育等の比率が多少低いようである。

2 回答者の所属学科別構成：質問I-(2)

調査対象となった各科目の回答者がいずれの学科に所属しているかを構成比の形で表したのが章

³経済学科が空白になっているのは，執筆者が入手した中間集計データに，入学年次内訳が含まれていなかったためである。

末「参考図」の第6図から第11図である。図6を再掲しよう。

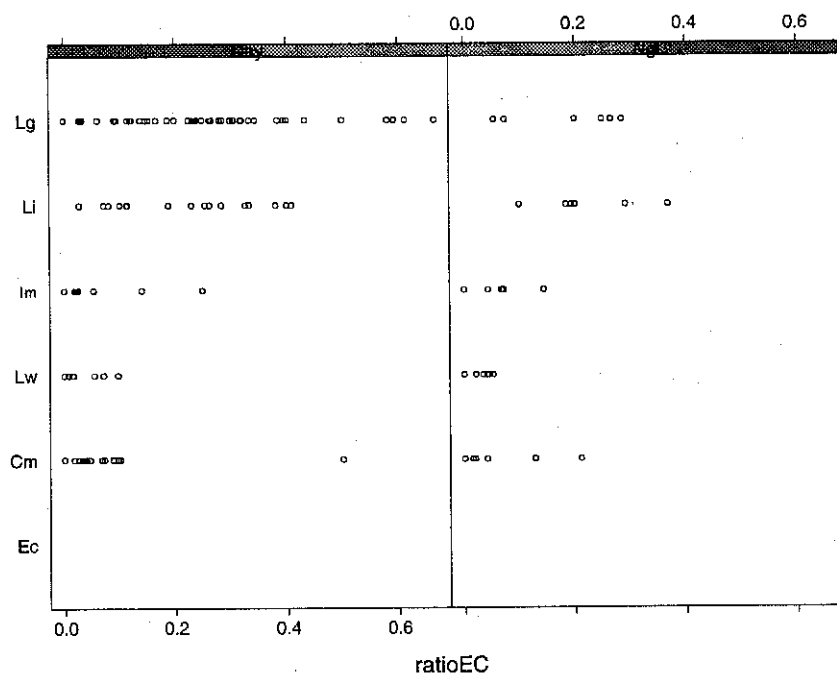


図2：経済学科所属学生の構成比（再掲：章末第6図）

図の構成は前節とほぼ同様である。表の上下に目盛りが付されている比率は入学年次別構成比ではなく、ここでは当該科目に占める経済学科所属学生の割合を示している。最下段の経済学科は調査形式の違いのため空白になっているが、経済学科の科目においては、概ね、経済学科所属学生が過半を占めることが容易に予測できる。他学科の科目において、経済学科所属学生がどれほどの割合で聴講しているか？語学、一般教育等科目では比率は様々である。商学科、企業法学科、社会情報学科の科目で経済学科所属学生の占める割合は、概して、5%から10%程度であるように思われる。商学科科目を聴講しているケースが比較的多いこともわかる。中には経済学科所属学生が40%を超える科目もある。社会情報学科にも比率の高い科目が散見される。夜間主コースについては、特に企業法学科科目において、経済学科所属学生の割合が低くなっているように見えるが、データ数も限定されているので、確かなことは不明である。

章末第7図～第11図から窺われる特徴点をまとめておくと以下ようになる。但し、未定学生は学生数が非常に少ないことからその構成比も1%未満であるので、説明は省略する。

- (i) 商学科所属学生の占める比率を見ると（第7図）、商学科科目で割合が高いことは容易に理解されるが、中には自学科学生が20%程度、60%程度という科目もある。他学科科目の状況を見ると、特に企業法学科科目で比率の高い科目が多く認められ、概して10%から20%を占めている。夜間主コースではそのような特徴は認められない。

(ii)企業法学科所属学生の占める比率を見ると(第8図),他学科科目については特に商学科科目で比率の高い科目が散見される。自学科所属学生の占める比率が非常に低い科目がある理由については明らかでない。⁴夜間主コースでは自学科所属学生比率はそれほど高い値に集中していない(この点は商学科,社会情報学科についても該当する)。他学科科目の聴講について指摘すべき特徴はない。

(iii)社会情報学科所属学生の比率を見ると(第9図),自学科科目については,構成比90%付近に一つのグループが認められるなど,比較的自学科学生の割合の高い科目が多い。他学科科目に占める比率は10%以下の場合が多い。経済学科科目の状況がわからないので断言はできないが,自学科科目を主として聴講しているように思われる。夜間主コースについてはこうした特徴は窺われない。

(iv)商業教員養成課程所属学生の比率を見ると(第10図),特に商学科科目で比較的割合の高いものが多い。

【注】 質問I-(3)からコース別構成比が科目ごとに分かる。しかしながら,昼間コースの科目では夜間主コース学生の比率の低い科目が多く,逆もまた言える。この状況をグラフで描画すると,重複点が多くなり,正確な図示が困難である。そうかといって,学科・コースごとの平均値を示すことにもそれほどの意味があるとは思われない。⁵したがって,本質問については説明を省略する。

3 講義の選択理由:質問II-(1)

「必修科目・選択必修科目であるため」 図3は「必修科目・選択必修科目であるため」を選択した回答者の割合を示している。

この図の表側には“Exs”, “Lng”, “Lec”という記号が付されているが,それぞれ「実技型」,「言語型」,「講義型」の授業を表すコードである。一つ一つの○が個別の科目を示すことはこれまでの図と同じである。

この図を見ると,語学科目において,必修・選択必修を理由に挙げた学生の割合が,概ね,過半を占めていることがわかる。実技型では高いケースと低いケースがある。講義型では様々である。平均値を示すと,講義型では35%,言語型では79%,実技型では45%となっている。夜間主コースにおいても昼間コースと同様のパターンが観察される。平均値を示すと講義型では27%,言語型では87%,実技型では12%である。

⁴特に割合がゼロ付近の講義のあることが示されているが,学部コードの入力ミスという可能性もありうる。いずれにせよ執筆者が利用している中間集計データでは個別科目を特定できない。

⁵昼間コース科目では同コース学生の構成比が平均として高く,夜間主コースでは同コース所属学生の比率が平均として高くなる。これは当然である。

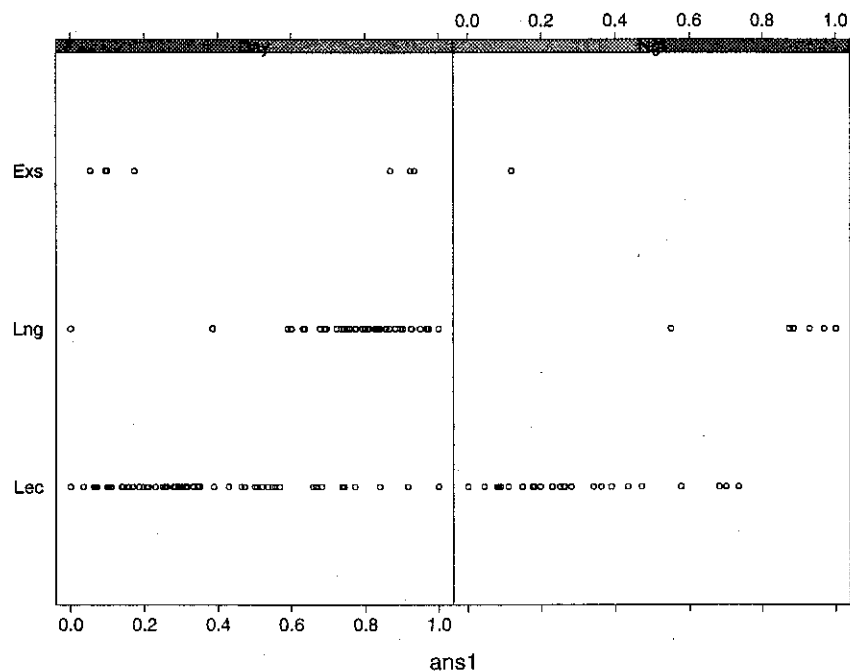


図3：「必修科目・選択必修科目であるため」の割合（再掲：章末第12図）

「専門の勉強に必要と考えたため」「専門の勉強に必要と考えたため」を選択した回答者の割合を示しているのは章末第13図である。一般教育等、語学科目で比率は低いものの、講義型でもそれほど高いケースが多いわけではない。平均値を計算すると、講義型では24%、言語型では3%、実技型では2%となる。夜間主コースでは、各々、30%、2%、2%となる。

「シラバス（授業計画を記載した冊子）を読み興味をもったため」章末第14図が「シラバス（授業計画を記載した冊子）を読み興味をもったため」と回答した者の割合を示している。講義型では平均値が24%である。分布のパターンは他の選択肢と比較して大きな違いはない。言語型では平均値が13%、実技型では37%となる。夜間主コースの平均値は、講義型16%、言語型6%、実技型44%となる。昼間コースではシラバス提供の一定の効果はあると思われる。

「授業時間の関係でとらざるをえなかったため」章末第15図が「授業時間の関係でとらざるをえなかったため」と回答したものの割合である。講義型では平均値が14%、言語型では2%、実技型では8%となる。夜間主コースでは、各々、25%、1%、26%となる。夜間主コースの講義型で、時間割の都合を挙げた者の割合が40%を超えるケースがいくつか散見される。昼間コースではこのような場合は僅かである。⁶夜間主コースの時間割に無理が生じていないか吟味の必要があろう。

⁶図では1ケースしかないように見えるが、近似した値が重複して打点されている可能性もある。

「その他」 選択肢「その他」は自由記入式になっている。執筆者に提供された集計データには本欄に記載された文章情報は割愛されているので説明は省略する。比率を章末第16図からみると、概ね5% から10%となっている。

総括 全科目の平均値で順位付けを行うと、昼間コースの講義型では、高いほうから順に、「必修・選択必修」→「専門の勉強に必要」→「シラバス」→「時間割の都合」となっている。言語型では、同様に、「必修・選択必修」→「シラバス」→「専門の勉強に必要」→「時間割の都合」となっている。実技型では、「必修・選択必修」→「シラバス」→「時間割の都合」→「専門の勉強に必要」となっている。夜間主コースでは、講義型が「専門の勉強に必要」→「必修・選択必修」→「時間割の都合」→「シラバス」となっている。言語型は「必修・選択必修」→「シラバス」→「専門の勉強に必要」→「時間割の都合」となっている。実技型は「シラバス」→「時間割の都合」→「必修・選択必修」→「専門の勉強に必要」となっている。

4 学習態度：質問Ⅲ

あなたはこの授業にどの位出席しましたか 全学科等の概要を章末第17図に示している。これは全員の「平均出席率」を図にしたものである。すなわち、選択肢として「100%出席」、「80%出席」、「50%出席」、「30%出席」、「ほとんど出席しなかった」が設けられているので、「ほとんど出席しない=10%出席」と解釈して、回答者全員の出席率を平均化した。それが章末第17図の横軸に測られている。この図を見ると、多くの科目で、概ね80%から90%の平均出席率であることが示されている。⁷

これを学科等別に見たものが図4の箱型図である。表が左右に区分され左側が昼間コース、右側が夜間主コースであること、および表側の学科コードはこれまでと同様である。この箱型図も本報告書で一貫して利用しているので、見方も含めて多少詳しく説明しておこう。

⁷ アンケートは授業終了後に回答用紙を配布して行われた。したがって恒常的に欠席していた学生の出席率は結果に反映されていない点に注意すべきである。あくまでも、その時点で出席していた学生の出席率である。

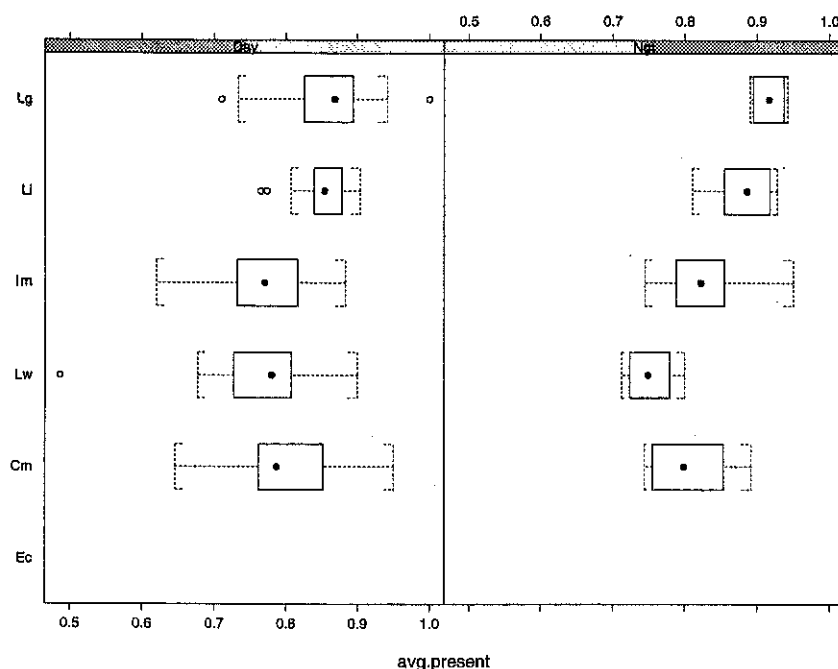


図4：学科コース別平均出席率（再掲：章末第18図）

昼間コース（表の左側ブロック）の一番上に描かれている言語センターの授業（学科コードが“Lg”）を見よう。大きな長方形の中に黒丸●が記されている。長方形の外側には点線が引かれ、やがて左右から限界付けるような境界線が点線で描かれている。その外側にも、いくつか白丸○が散見される。

さて、図の長方形は全体の50%の科目がこの中に含まれることを意味する。したがって、言語センターの場合であれば、長方形の左右を見て、（普通は）低くて80%強、高くて90%弱の平均出席率である、ことが先ず分かる。長方形の中にある黒丸●は中位数（あるいは中央値⁸）を表す。つまり丁度真ん中に来る科目がこの位置にあることを示している。下の目盛りを読むと、言語センター科目の中で、出席率という点で丁度真ん中に来る科目は、平均出席率が大体85%程度であることが分かる。外側に延びている点線は最大限と最小限がどのくらいであることを示している。それを見ると、言語センターでは低い場合で70%強、高い場合は90%強である。ただし、点線の示す最大限、最小限は、通常よく見られる分布パターンから判断した際の結果であり、実際にはとても信じられないような値が混在する。⁹このような「信じられないような値」のことを「外れ値 (outlier)」と呼んでいるが、点線の示す境界の外側に布置されている白丸○は外れ値と思われるデータを示している。¹⁰図の見方は、概略、以上のとおりである。

⁸ 100人が高低順に並んだ時、50番目の人に着目することである。

⁹ 執筆者自身が、信じられないのではなく、プログラムされているコンピューターが「信じられない」と言っているのであるから誤解なきように願いたい。

¹⁰ 通常は外れ値のあった場合は入力ミスの点検、特別な事情の存在等をチェックするのであるが、ここでは全面的に調査データを信頼することにする。

表1：学科別の欠席理由の状況（昼間コース）

	商 学 科	企業法学科	社会情報学科	一般教育等	言語センター
病気	22	19	15	32	33
教育実習・短期留学	3	1	1	1	2
サークル活動	20	13	17	16	18
アルバイト	8	4	6	4	4
自己の怠慢	40	52	54	38	36
その他	8	11	7	8	7

表2：学科別の欠席理由の状況（夜間主コース）

	商 学 科	企業法学科	社会情報学科	一般教育等	言語センター
病気	23	14	16	22	28
教育実習・短期留学	1	1	0	1	0
サークル活動	5	8	4	4	7
アルバイト	19	17	13	21	19
自己の怠慢	39	36	43	33	27
その他	13	23	24	19	18

学科別に出席率を見ると、言語センター、一般教育等が、商学科、企業法学科、社会情報学科に比して、概して高いことがわかる。この傾向は夜間主コースでも同様である。商学科、企業法学科、社会情報学科の間にも若干の差違はあるが、この程度の差違から明確な判断は難しい。夜間主コースでは平均出席率が70%を切る科目はないが、昼間コースでは商学科、企業法学科、社会情報学科に、そのような科目が相当数あることがわかる。

欠席した主な理由は何ですか 欠席理由として「病気のため」を選んだ者の比率をグラフにすると章末第19図のようになるが、図から明確な結論を導くことは困難である。ここでは学科・コースごとに、各選択肢を選んだ者の比率を平均した値を表の形で示そう。先ず昼間コースについては表1のようになる。夜間主コースは表2に示されている。

これらの表を見ると、授業に欠席する理由として、概して「自己の怠慢」がトップに挙げられている。但し、夜間主コースの語学科目では「病気」を挙げている者の割合が最も高い。「病気」を理由に挙げる者の比率は、どの学科・コースでも第2位か第3位を占めている。「自己の怠慢」を挙げる者は、特に昼間コースの企業法学科、社会情報学科において過半を占めている。昼間コースでは「サークル活動」を挙げる者が多い一方で「アルバイト」を挙げるものは少ない。夜間主コースではこの辺りの事情が逆転している。

あなたの学習態度は熱心でしたか 選択肢としては「非常に熱心」から「熱心でなかった」までが設けられているので、順に5点から1点までを付して数値化した。そのあと、科目ごとに各選択肢を選んだ人数をウェイトにして加重平均を行い、科目別平均スコアを計算した。その分布を見たものが、章末第20図である。それを見ると3点台前半の科目が最も多く見られる。

図5は、この状況を学科等・コース別に示したものである。

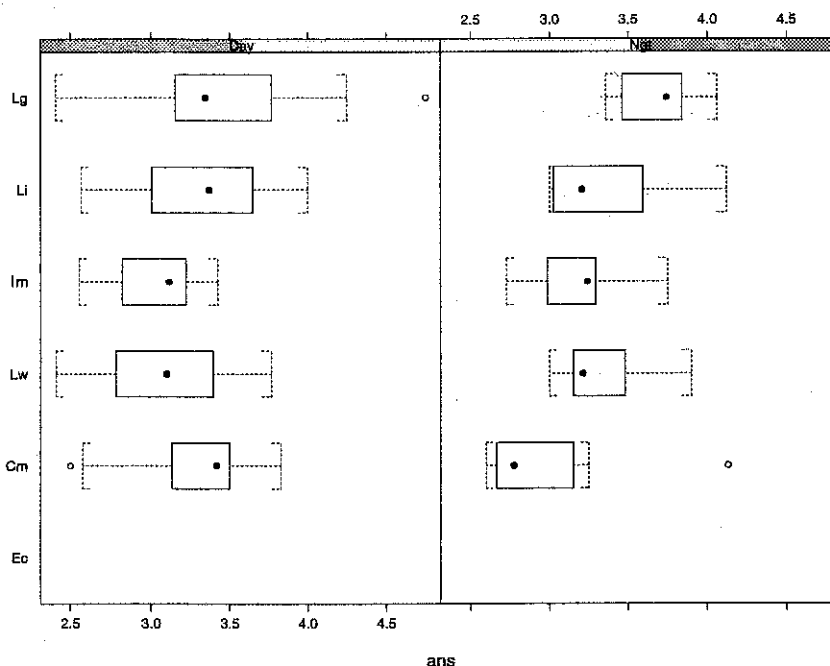


図5：平均的な学習態度の分布（再掲：章末第21図）

これを見ると、昼間コースでは、企業法学科、社会情報学科の回答者が、比較的、自分達はあまり熱心ではなかったと感じているよう模様が見て取れるが、もとより回答している者は同一人物ではないことから、この解釈は難しいところもある。同種の点として、夜間主コースにおいては、語学科目に出席している者は「熱心に聴いた」と判断している者が多く、商学科の科目においては低くなっている。平均化することにより浮かび上がってくるこうした特徴の実際面に則した解釈は、教育の現場で実際に講義を担当している者であって、初めてできることであることを強調しておきたい。¹¹

予習復習をどの程度行ったか この質問も選択肢として「毎回十分行った」から「ほとんど行わなかった」までが設けられており数値化が可能である。そこで前問と同様に、「毎回行った=5点」から「ほとんど行わなかった=1点」という具合に得点を与え、科目ごとに平均スコアを計算した。

¹¹ 今回のアンケート調査においては個別科目の原票データは授業担当者に返却されている。全体的な特徴を述べた本報告の内容と、個別の結果を比較していただきたいというのが、執筆者の希望である。

この分布全体を見たのが、章末第22図である。これによれば、平均スコアが1.5～2.0点である科目が最も多い。つまり「ごくまれにしか予習復習を行わなかった」か「ほとんど行わなかった」の中間にあるケースが多いことを意味する。「毎回」ないし「ほぼ毎回予復習を行っている」者が多い科目は平均スコアが4点以上になるはずである。そのような科目はほとんどないことがわかる。

学科・コースごとにこの状況を見たのが章末第23図である。これを見ると、言語センター科目については中位数が昼間コースで2.5点付近、夜間主コースでは3点強となっている。通常のケースでも「ごくまれ」から「時々」予復習を行っている学生が多いことがわかる。一般に言語センター科目を聴講している学生はかなり予習復習を心がけている模様であり、他の学科等とは状況が異なる。社会情報学科にも予復習に関して平均スコアの高い科目が認められる。また、夜間主コースでは企業法学科にも比率の高い科目がある。

なぜ予習・復習を行わなかった この質問についても、選択肢別の構成比を学科・コースごとに平均化してみる。その結果を示したのが表3と表4である。¹²

表3：予習・復習を行わなかった理由（昼間コース）

	商 学 科	企業法学科	社会情報学科	一般教育等	言語センター
自己の怠慢	47	49	49	15	60
サークル活動	4	3	6	5	8
アルバイト	4	3	5	2	7
必要がない	43	41	40	72	24
その他	2	4	1	6	2

表4：予習・復習を行わなかった理由（夜間主コース）

	商 学 科	企業法学科	社会情報学科	一般教育等	言語センター
自己の怠慢	46	37	40	29	79
サークル活動	1	1	3	0	5
アルバイト	13	8	8	7	11
必要がない	32	47	45	57	2
その他	8	8	4	7	4

¹²すべての回答者がどの選択肢も選ばなかった科目も存在する。そのようなケースは計算からは除外した。このように除外する科目が生じた質問は他にもあり、除外される科目はその度に異なっているが、細かな点であるので詳細は省略する。

これらを見ると、夜間主コースの学生で「アルバイト」を挙げている割合が比較的多い点を除くと、各学科等で昼間、夜間主の間に大した違いは見られない。商学科、企業法学科、社会情報学科とも「自己の怠慢」を挙げた者の割合が40%程度ないし50%程度となっている。言語センターでは「自己の怠慢」のため予習復習をしなかったと回答したものが60%以上にのぼる。一般教育等は「自己の怠慢」に理由を求めたものは比較的少ない。次いで多く回答された項目は「必要がない」である。一般教育等ではこの項目を選択した者が最も多い。言語センター科目については予習復習の「必要がない」と感じている者はそれほど多くいない（特に夜間主コース）ことが分かる。夜間主コースでは「必要がない」というよりも「アルバイト」を理由に挙げている者が語学の場合にはかなり目立つ。

5 授業の満足度：質問Ⅳ

総合的にどの程度の満足が得られたか 自己評価委員会作成の質問票では、語学科目については、“「読む・書く・聞く・話す」という語学の4技能のバランスのとれた習得という点から判断”した場合の満足度を聞いている。また、本質問以降、経済学科で実施されたアンケートと対応の可能な質問が多いので、互いの質問文のニュアンスに多少の違いがあることは考慮しながら、経済学科の結果も含めて報告しよう。経済学科のアンケートでは、問25として「この科目への期待は満たされましたか」という質問を設け、得点1から得点5の間で選択させている。これを本質問と対応づけることにする。

まず回答を数値化する。前と同様に、選択肢「非常に満足」を5点、以下順に低下し、選択肢「非常に不満」には1点を付する。そうした上で、各選択肢を選んだ学生数に応じて、科目ごとに平均スコアを計算する。経済学科については、既にこのように平均化された値が執筆者の手元に提供されている。この二つの結果を統合して、全容を見たものが、章末第24図である。これによると、3.3点程度¹³の科目が最も多いことが分かる。概して「どちらともいえない」ないし「かなり満足できた」の中間辺りの感想が伝えられたと解釈できる。分布全体では右の方へ裾野を引いており、「並み値」以上のケースが多い。4点を超える科目も相当ある。逆に、2点以下、つまり「やや不満」という感想が平均的であるような科目はない。¹⁴

¹³並み値 (mode) という。

¹⁴もっとも、大いに不満を感じている学生は極端に出席率が低くなることが予想される。回答者の出席率は平均的には高いと判明しているので、普段は欠席しているが、アンケート実施当日に出席し、不満を伝えた学生はそれほどいなかったと、結論できる。したがって、本表に示された満足度の高さを文字どおり受取ることは慎重であるべきと思われる。

学科別の満足度を示したのが図6である。

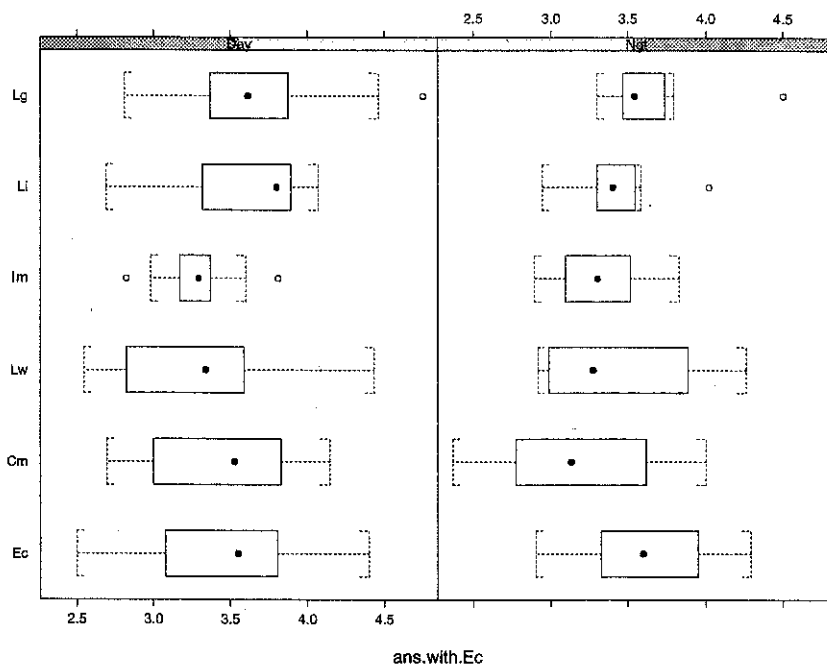


図6：授業への満足度の状況（再掲：章末第25図）

これを見ると、平均的には、昼間コース、夜間主コースとも、学科系の間でそれほど大きな違いはない。どの学科系でも科目によって学生の満足度には相当の開きがあると認められるが、これは当然予想されるところである。強いて言えば、社会情報学科では科目間の満足度の相違が他学科に比して小さいと憶測される。

授業のどのような点が良かったか 授業への満足を感じる上でプラス評価されると思われる点を選択肢として設けている。これは数値化ができない。かと言って、実際には様々な個性を有した授業が行なわれているので、選択肢の構成比を個別授業ごとにグラフに布置したとしても、どの選択肢についても、それを選んだ者の多い科目も少ない科目もある、ということになり情報は何も伝わらない。したがって、集計することに問題はあることは承知の上で、学科・コース別に、その選択肢を選んだ者の構成比を平均して表に示す。それが、表5と表6である。

表5：授業の良かった点（昼間コース）

	商 学 科	企業法 学 科	社会情報学科	一般教育等	言語センター
わかりやすい	21	17	15	17	27
関心を高めた	28	21	28	23	24
楽しかった	9	11	8	28	10
真剣だった	39	48	46	30	36
その他	3	3	4	2	3

表6：授業の良かった点（夜間主コース）

	商 学 科	企業法学科	社会情報学科	一般教育等	言語センター
わかりやすい	17	20	22	17	25
関心を高めた	21	27	21	27	27
楽しかった	12	11	5	17	12
真剣だった	46	40	50	36	30
その他	4	2	2	4	6

これを見ると、昼間、夜間主コースとも、「真剣だった（＝まじめに講義をしてくれた）」ことを満足の理由に掲げる者が最も多いことが分かる。次いで多く挙げられた点は学科によって異なる。昼間コースをみると、商学科で「関心を高めた」、企業法学科で「関心を高めた」、社会情報学科で「関心を高めた」、一般教育等で「楽しかった」、言語センターで「わかりやすい」という理由が二番目に挙げられている。夜間主コースでは、商学科「関心を高めた」、企業法学科「関心を高めた」、社会情報学科「わかりやすい」、一般教育等「関心を高めた」、言語センター「関心を高めた」となる。いずれにしても「真剣に」講義を行い、内容が「関心を高めるような」ものであれば、高い満足を感じる傾向が窺われるが、このこと自体は時代を通じて常に当てはまることではなからうか。

授業のどのような点が悪かったか 今度は、前問と反対に、授業のどのような点がマイナスに評価され、満足度を低めているかを見てみよう。これも前問と同じ理由により、学科・コースごとに平均的な構成比を計算した。それが表7と表8である。

表7：授業の悪かった点（昼間コース）

	商 学 科	企業法学科	社会情報学科	一般教育等	言語センター
わかりにくい	24	27	30	17	18
工夫が不足	23	22	26	22	23
単調である	22	34	28	42	33
休講が多い	7	0	1	3	1
その他	23	17	14	16	25

表8：授業の悪かった点（夜間主コース）

	商 学 科	企業法学科	社会情報学科	一般教育等	言語センター
わかりにくい	26	30	23	19	19
工夫が不足	29	24	23	21	18
単調である	24	29	29	33	30
休講が多い	3	1	0	4	0
その他	18	16	24	23	33

これを見ると、選択肢に設けられている理由以外の「その他」を選択した者がいずれの学科系、コースでも相当いたことがわかる。これは自由記入式になっており、回答に関する文章情報が必要となる。¹⁵これを無視して、どのような項目が選択されたかをみると、昼間コースで最も多く挙げられた項目は、商学科「わかりにくい」、企業法学科「単調である」、社会情報学科「わかりにくい」、一般教育等「単調である」、言語センター「単調である」となっており、単調であることに不満を感じる者の非常に多いことが窺われる。夜間主コースでは、商学科「工夫が不足」、企業法学科「わかりにくい」、社会情報学科「単調である」、一般教育等「単調である」、言語センター「単調である」となっており、やはり「単調である」と指摘するケースが多いことがわかる。¹⁶

「単調である」というのは、選択肢では「話が（練習が）単調すぎた」という文章表現になっているが、具体的にどのような側面が「単調」ととらえられたのか、今一つ明瞭に伝わってこないうらみがある。「わかりにくい」ことを不満に掲げる学生は以前より存在したし、教官側で対処の可能な点でもある。「単調」という指摘について、その具体的内容を追查することが必要と思われる。

6 授業の内容について：質問V

講義内容は体系的だったか この質問は授業のタイプ、自己評価委員会作成の質問票、経済学科の質問票で、文章表現上かなりの違いが認められるところである。自己評価委員会作成の質問票の質問文は、講義型では「講義内容は体系的でしたか」、語学型では「語学の習得を目指す授業では、通常、説明と練習が二本柱となりますが、その配分は適切でしたか」、実技型では「実技・実習の習得を目指す授業では、通常、説明と練習が二本柱となりますが、その配分は適切でしたか」となっており、講義型と語学・実技型では相当ニュアンスが違っている。また、経済学科アンケート

¹⁵ 残念ながら、執筆者に提供されているのは科目ごとに集計された数値情報のみなので、どのような点に不満を感じているのか、具体的な論評を加えることはできない。

¹⁶ もちろんこれは科目を通じて構成比を平均した結果である。大体の傾向と解釈して頂きたい。

で対応可能な質問を探すと、内容がピッタリと一致するものは見当たらない。ここでは問9の「教官は講義の題材を十分に把握していましたか」が質問趣旨の点で近いものと考え対応づけることにした。

本問もこれまでと同様の数値化を行う。但し、「出席不足のためわからない」項目にはスコア0を付す。その上で経済学科と統合し、全容を図化したのが章末第26図である。これをみると、3.5点から3.7点の辺りが最も多数であることがわかる。つまり、「どちらともいえない」から「かなり適切」までの中間として解釈できる。分布のパターンとしては並み値を中心にしてほぼ対称になっている。肯定的な反応を得ている科目とほぼ同数の否定的反応を得ている科目があるわけである。

学科・コース別に見たのが図7である。ここには質問文の相違による影響も混在していると思われるので、学科等との差があると判断するには、いささか情報が不足している。今回の調査結果だけから言えば、昼間、夜間主コースとも、経済学科の平均スコアが高いように見える。¹⁷商学科は昼間コースと夜間主コースの平均スコアがかなり乖離している。

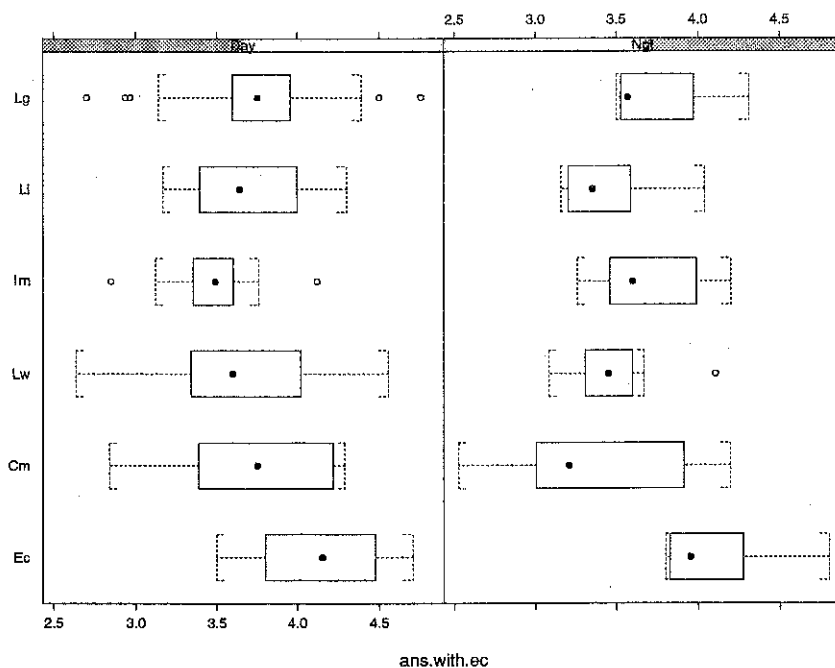


図7：講義内容は体系的だったか（再掲：章末第27図）

¹⁷ 経済学科の質問文のニュアンスがかなり他と異なることも影響しているかもしれない。

授業内容は興味深いものだったか 経済学科で対応付け可能な質問は問13「履修前に比べて、この科目の内容に関心を持つようになりましたか」である。

前問と同様にして、数値化し経済学科と統合し平均スコアの分布を見たのが、章末第28図である。これをみると3.3点から4.0点までの区間で、多くの科目が認められる。それぞれの科目に出席している回答者の間で、かなり反応のばらつきがあると窺われる。“興味深い”かどうかというのは、人によって物差しが様々であるので、平均が特定しにくいものと思われる。

学科・コース別に区分したのが章末第29図である。昼間コースでは、多少、社会情報学科、企業法学科で低下が観察されるが、夜間主コースとはパターンが異なっており、確実なことは今回調査だけでは分からない。本問でも、商学科では昼間コースと夜間主コースの間で乖離が大きいようである。

授業は量的に適切だったか 経済学科アンケートでは一致する質問がないので、質問趣旨の点から問16「講義の進度は適切だったか」と対応づける。但し、経済学科では単純な5段階評価であるのに対して、自己評価委員会作成質問票では、「非常に多すぎた」、「やや多すぎた」、「適量だった」、「やや少なすぎた」、「きわめて少なすぎた」とあり、最高スコアの5点は「適量」に与えるべきである。そこで平均的には3点になるようにするため、「非常に多すぎる」=「きわめて少なすぎた」=2点、「やや多すぎた」=「やや少なすぎた」=3点、「適量」=5点のように得点化する。その上で、これまでのように平均化し、経済学科と統合した。

全体の得点分布を見たのが章末第30図である。これによると、4.0点から4.2点辺りの科目が最も多く、授業内容の量としては、ほぼ適量と感じていると解釈できる。

学科・コース別に分けているのが章末第31図である。これをみると、経済学科が多少低いようにも受け取れる。とはいえ、得点化の方式が異なっていることも影響している可能性がある。共通の質問票を用いた他学科系の間では、それほど大きな差違は学科間に観察されない。ここでも夜間主コースで商学科の低下（昼間コースの結果と比して）が目立つようである。¹⁸

講義内容は当初の授業計画に沿ったものだったか 経済学科アンケートの問10「年度当初に配布されたシラバス（授業計画）は役に立ちましたか」と対応づける。単純な5段階評価で数値化し、経済学科と統合して、得点分布を図化したものが、章末第32図である。これをみると、最も科目数の

¹⁸科目の特定化は執筆者には不可能だが、複数の質問を通じて現れる特徴なので、原因と思われる点を追求したほうが良いように思われる。

多いのは平均スコアが4.5点付近の区間である。全体的にも3.5点以上にはほとんどの科目があり、ほとんどの授業は当初の計画に沿って行われており、その意味でシラバス（授業計画）の提供は大いに有意義であると評価される。

学科・コース別にみると章末第33図のようになる。これによると経済学科で低くなっているようである。ただ、他の質問とも共通するが、質問文が異なっていることの影響が混在している可能性も否定できない。自己評価委員会作成の質問票を利用した他学科では大きな差は認められない。

7 授業の方法：質問VI

教師の話し方は適切だったか 経済学科アンケートの間「教官の説明は明快でよく理解できたか」と対応づけることにする。単純に5段階評価で数値化し、これまでのように、平均スコアを計算する。その分布を描いたのが、章末第34図である。3.5点～4.5点の科目が多いようである。3点を下回る（平均的に「聞きにくい」と受け取られている）科目は少数である。

学科・コース別に区分してみると図8のようになる。

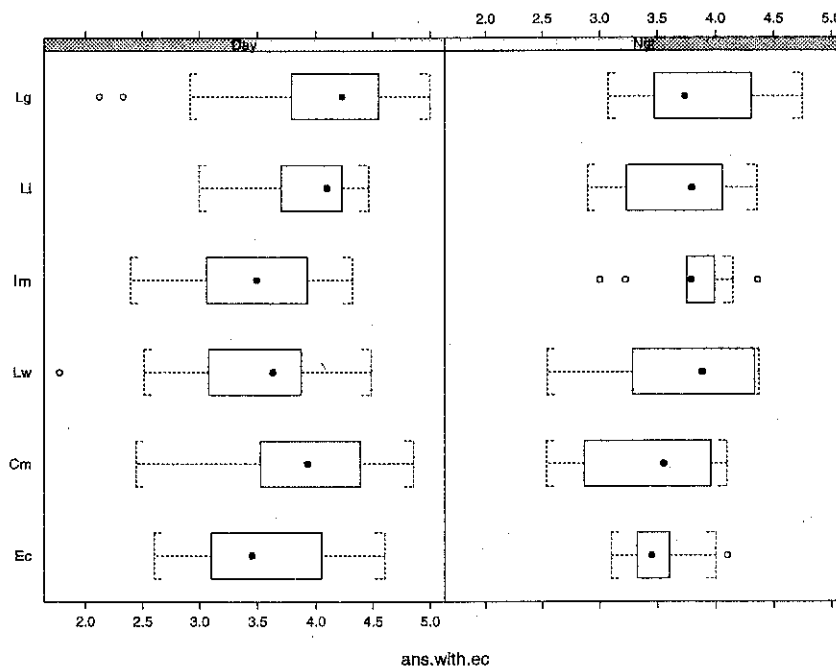


図8：話し方の適切さ（再掲：章末第35図）

これによると、学科間の差はほとんど見られない。コース間の差もないと判断しておいてよい。

テキスト・プリント等は適切に使われたか 経済学科アンケートでは問18「教科書は役に立ったか」、問19「教科書の説明はわかりやすいものだったか」、問20「講義は教科書の内容を解説・補完していたか」、問21「配布されたプリントは講義内容の理解に役立ったか」がいずれも同じ趣旨を持っている。そこで経済学科アンケートの以上4問の得点の平均値を「テキスト・プリント等が適切に使われたか」という質問の回答として採用した。

単純な5段階評価で数値化し、上記のように加工した経済学科の結果と統合して、得点の分布をみたものが、章末第36図である。これをみると、3.5点～4.0点までの区間に該当する科目が最も多い。分布の形は多少左に裾野を引いており、得点の低い科目が少なからずあることを示唆している。¹⁹

学科・コース別に区分したのが図9である。

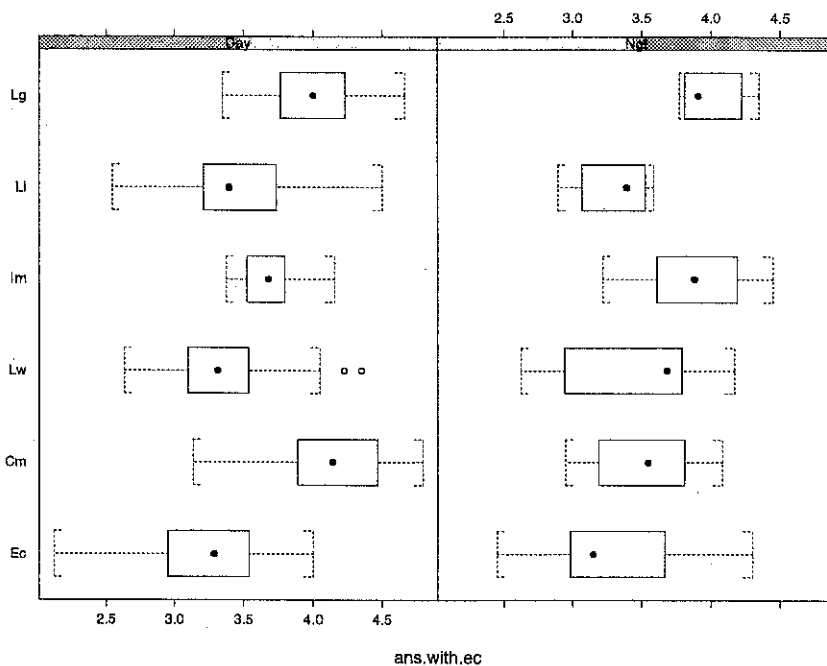


図9：テキスト・プリント使用の適切さ（再掲：章末第37図）

¹⁹ プリントを配布していない科目、プリント主体でテキストを指定していない科目が実際にはあるが、こうしたケースでは、たとえばプリントがないので「どちらともいえない」と回答するであろう。その場合、得点は3点となる。これが適切な数値化であるかどうか議論があるだろう。とはいえ、科目を特定できず、授業内容の具体的情報がない状況の下では、これ以外に適切な方法が少ないことも事実である。

これをみると、昼間コースでは商学科、言語センターのスコアが多少高いように思われる。経済学科、一般教育等は昼間、夜間主コースとも低いレベルにとどまっている。

黒板、OHP、ビデオ装置等の使い方は適切だったか 経済学科の問7「板書・OHP等による説明はわかりやすく感じましたか」と対応づけ可能である。

単純な5段階評価で数値化し得点分布を見たのが章末第38図である。これを見ると、3.0～3.5点の区間に最も多くの科目が該当している。分布形状は右に歪んでおり、低スコアの科目はそれほど多くはない。²⁰学科・コース別に区分したのが、図10である。

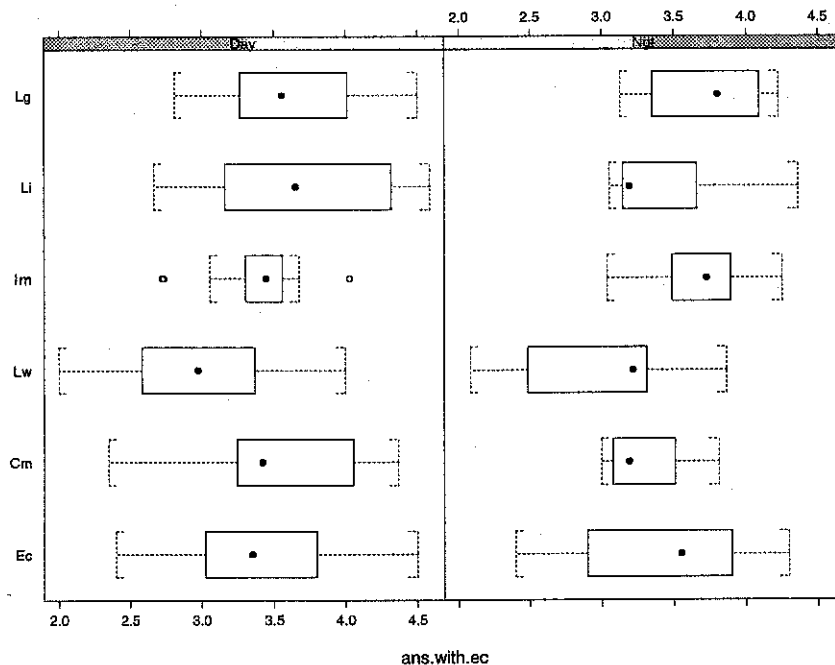


図10：黒板、OHP、ビデオの利用は適切だったか（再掲：章末第39図）

これをみると、昼間、夜間主コースとも企業法学科のレベルが多少低いように見えるほかは、学科間に大きな差違は認められない。但し、脚注にも言及しているが、OHP、ビデオをほとんど使用しない講義スタイルが主である場合に、低スコアを容易に発生させている可能性が否定できない。

板書は多くの講義で通常使われている伝達媒体であるが、「板書」という点に限定すれば、「文字の大きさが適切か」、「書き記す内容が整理されているか」、等々、様々の視点が残されている。脚注にも述べているが、実習を行ったほうがより理解できると感じている場合にコンピューター実

²⁰ OHPやビデオ装置を使用しない科目の場合、板書のみを5段階評価すればよいのだが、OHPやビデオの使用が付加的にプラス要素に働くよう質問文が誘導している可能性がある。一つの反省点である。

習等を行わないことによるスコアと、板書が最適の媒体である場合にビデオやOHP等を使用しないことによるスコアとは、異なっているべきである。ここは質問設計に改善の余地が残されていると感じられた一つである。

教師は学生の反応を見ながら授業を進めていましたか この質問には経済学科アンケートで対応可能なものはない。そこで、自己評価委員会作成の質問票を利用した学科のみを対象としてデータを見よう。これまでと同じように単純な5段階評価により数値化し得点分布を見る。全体としての分布は章末第40図のようになる。これを見ると、3.5~4.0点の範囲に該当する科目が多い。3点台後半で窪みが見られるが、データ数が少ないためであり、特別な意味はないと思われる。学科・コース別に区分したのが図11である。

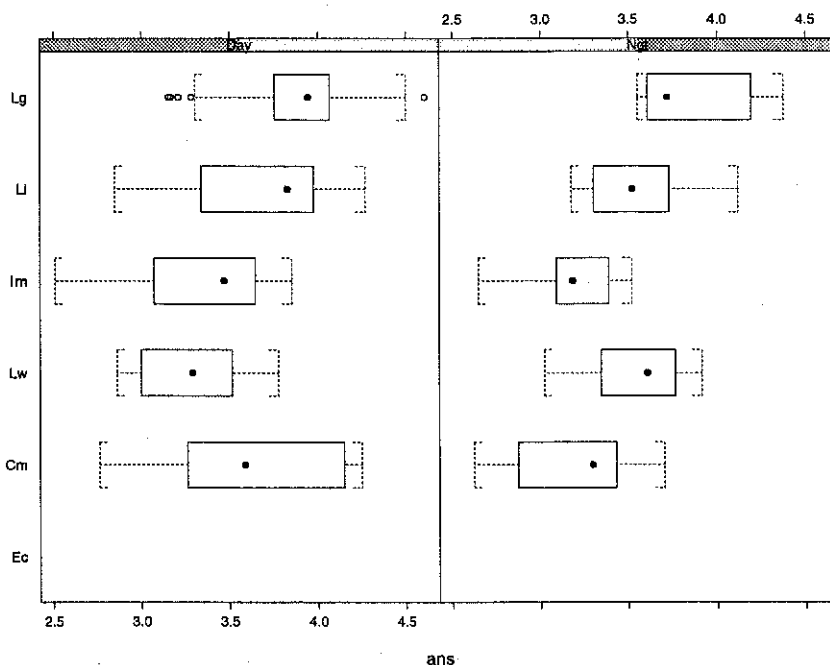


図11：学生の反応を見ていたか（再掲：章末第41図）

これを見ると、昼間コースと夜間主コースの間で、それほどのパターンの違いはない。昼間コース言語センターのスコアが高く、企業法学科が多少低いように見えるが、はっきりとしたことは言えない。両コースを通じて言語センター、一般教育等のレベルが多少高いように感じられるが、それほど顕著ではない。

Ⅲ 今後の方向と検討課題 — 試行を踏まえて —

今後、「授業改善のための学生アンケート調査」を継続的に実施していく方向を検討する際に、今回のアンケート調査実施から浮かび上がってきた問題点として、以下の諸点を挙げておきたい。

- (i) 今回は、自己評価委員会作成の質問票と経済学科が独自に作成した質問票が、並行して使用された。調査の質問項目に各学科独自の状況を反映させるほうが適当か、質問項目を統一したほうが適当か、これまで議論があったが、収集されたデータを全体的に分析する際には、質問項目を統一したほうが遥かに効率的である。というより以上に、異なった質問票から得られた結果を比較することは非常に困難であり、また誤った結論を導く遠因にもなる。各学科が独自に設計した質問については、それらが互いに類似した内容を持った質問であったとしても、その結果を利用して全学的視点に立った分析を行なうことは避けるべきであろう。
- (ii) 平均出席率に関する結果から示唆されているように、授業に対する学生達の感想はアンケート実施当日に講義に出席した者達から集められており、彼らは概ね出席率の高い学生達である。経済学科のアンケートでも、履修者総数と回答者の比率は、科目ごとに相当の開きがある。²¹ こうした事実が何を意味するか。ほぼ恒常的に講義を欠席する者の感想がデータとして残っていない以上、この点が不明のまま残されていることは、「授業改善」という目的を考えると、アンケートを実施する上で、見過ごせない問題である。
- (iii) 質問文の作成で反省すべき箇所がいくつかあった。たとえば、板書も含めて講義内容の伝達手段の選択と使用法が適切だったかという狙いの質問で、OHPやビデオ装置を使用したほうが高いポイントを与えがちな文章表現になっている。質問文の解釈の一義性はアンケート調査の重要な点であるので、調査票の設計を一層洗練されたものにするべきである。「興味深い」という表現も人によって受け取り方に大きな差があり、結果の解釈に多少の困難をもたらした。
- (iv) 授業に対する不満な点として「その他」を選択する者が目だった。これは自由記入式なので文章情報として提供されている。今回の報告では文章情報は執筆者に提供されなかった。仮に提供されていたとしても、その精査、分類、分析にはかなりの時間を要したと思われる。アンケート実施→データ入力→データ解析→報告書作成→内部検討→公表という一連の流れを、適正なスケジュールの下で、進めるべきである。特に今回は試行ということもあり、スケジュールが逼迫しており、データ入力段階で多少のミスが発見された。発見される入力ミスは幸運

²¹ 経済学科のアンケートには本報告で言及されていない諸結果が含まれている。これらの点を含め結果の全体は「学園だより」等を通じて公表する予定であるから別途参照されたい。

であることを認識して、必要十分な時間を確保した日程の作成が求められる。たとえば継続的に実施するのであれば、1ヶ月程度の遅れで概要報告、3、4ヶ月程度の遅れで本報告という風に取りまとめるのも一案であろう。

(v) 継続的にアンケートを実施し、データを定期的に収集することが、より正しいメッセージをくみ取ることに通じる。今回の調査でもかなりの事実が判明したが、図や表に示されている表面的な観察結果を、客観的な傾向そのものと速断することには無理がある。おそらく異なった日付で実施していれば異なった結果が得られたものと思われる。定期的に実施し、データを観察することから、正確な認識が得られる。その意味でも今回の調査は「試行」であったと言わざるをえない。

(vi) 個々の授業名が特定できる形で公表することには、これまでかなりの議論があり、²² そのほうが良いかどうかという基本的な点についても、様々の考え方がありうる。²³ データを分析した当事者としての感想をここで述べれば、確かに授業名を特定できないために、不明のまま残された点が多々あったが、それは必ずしも致命的な欠陥としては意識されなかった。個々の授業の実際に則した現場を知らない者としては、仮に授業を特定できたとしても、そのことによって得られる情報はそれほど豊かなものではなく、また、それによって非常に優れた報告書を作成できた可能性も、一見予想されるほどに高くはなかった、という印象を抱いている。より重要なことは、個別科目に関する結果を公表することではなく、継続的かつ定期的に、この種の情報を収集するシステムを構築することである。

²² 経済学科のアンケートは個別授業ごとの公表を前提に質問を設計した。

²³ 全体における個々の授業の相対位置は、担当者に原票データが返却されているので、本報告書を参照することにより判断は可能である。これは授業改善への努力を行ううえで必要十分な状況であるとも言える。個別授業の結果を公表することには、授業改善のために個々の担当者の努力を促すという以上の別の目的が要請されているのではなかろうか。

図3 : コース別学科別95年入学者の比率

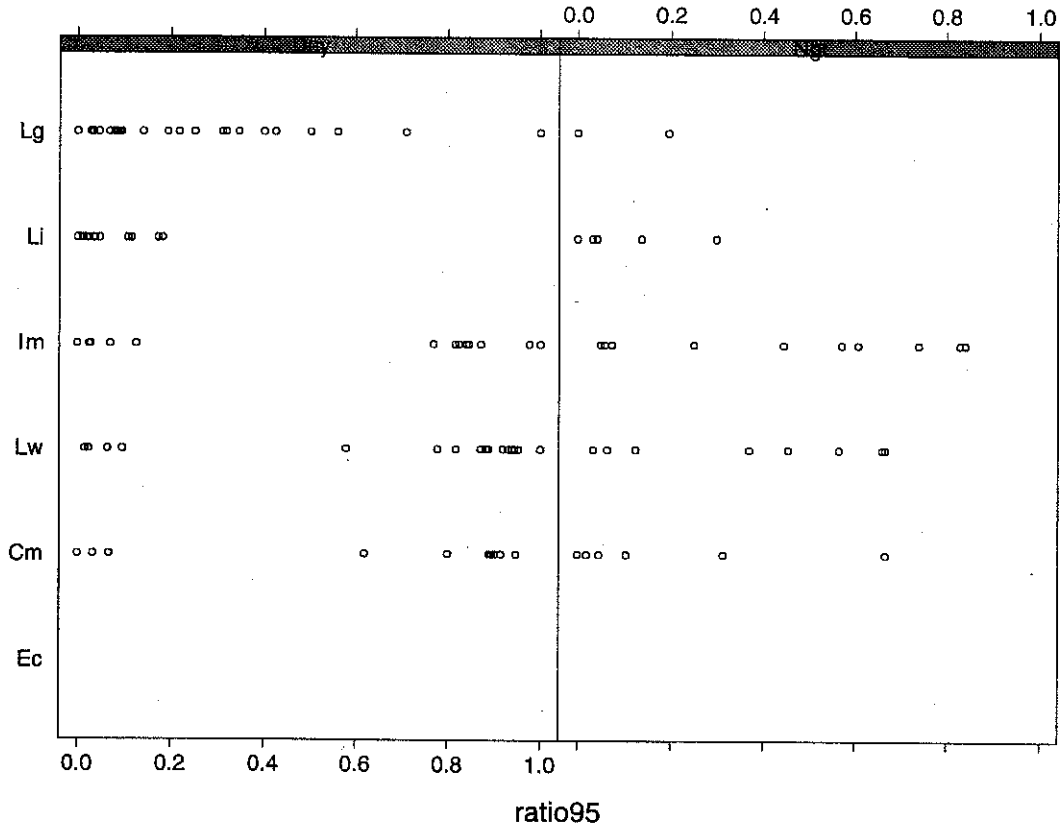


図4 : コース別学科別94年入学者の比率

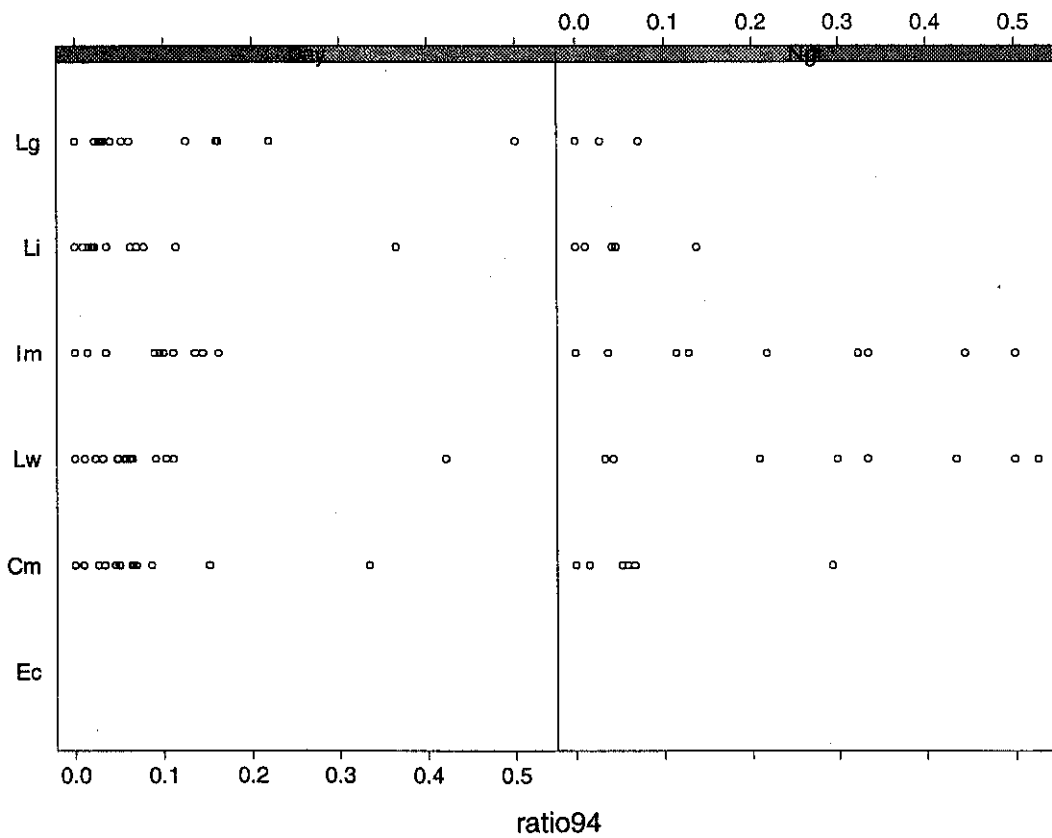


図7：商学科所属学生の構成比

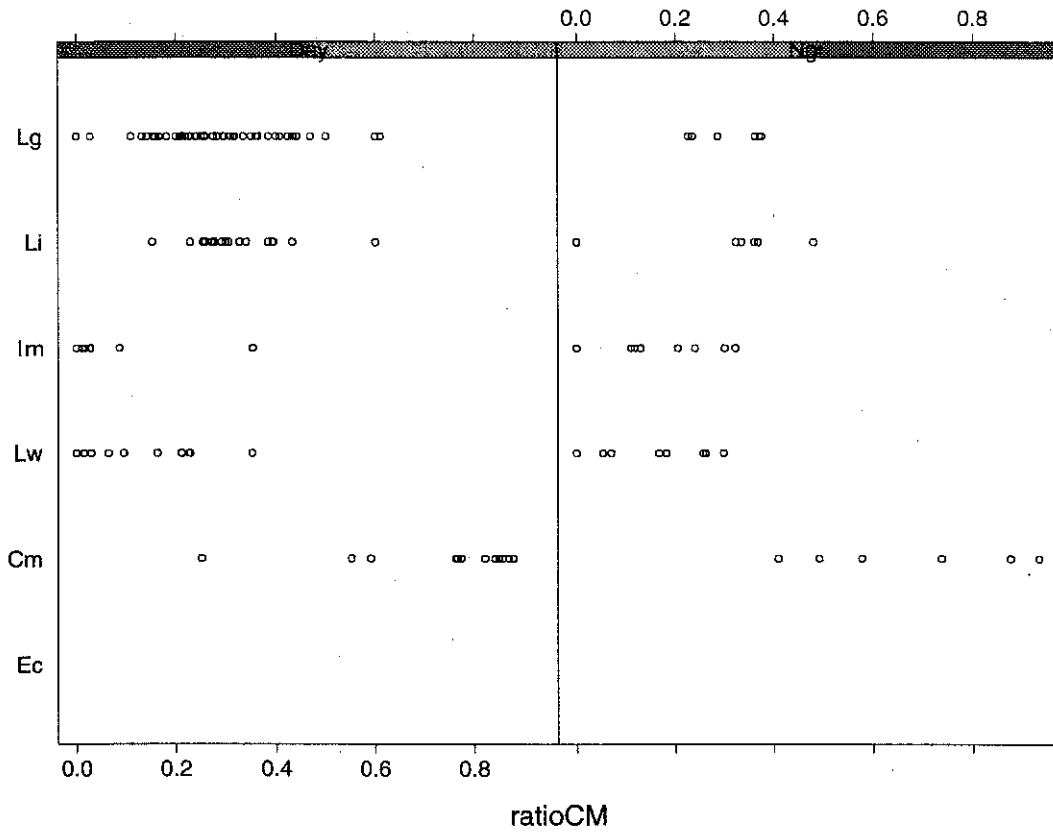


図8：企業法学科所属学生の構成比

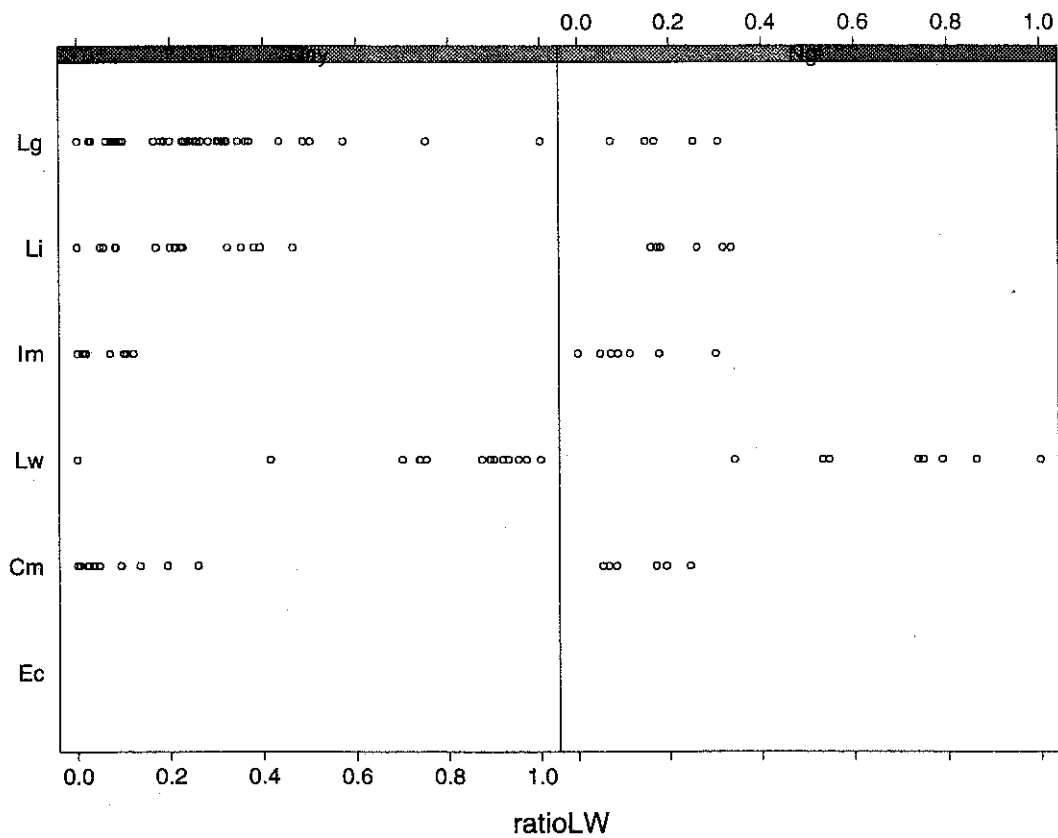


図9：社会情報学科所属学生の構成比

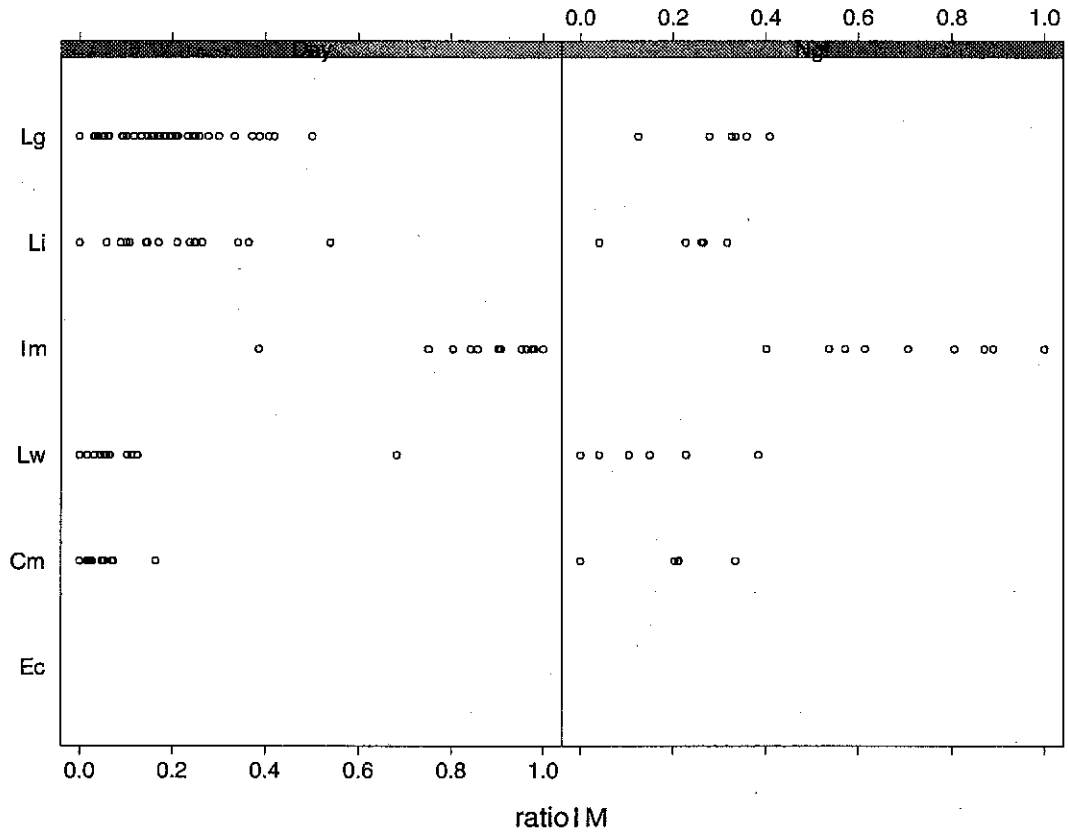


図10：商業教員養成課程所属学生の構成比

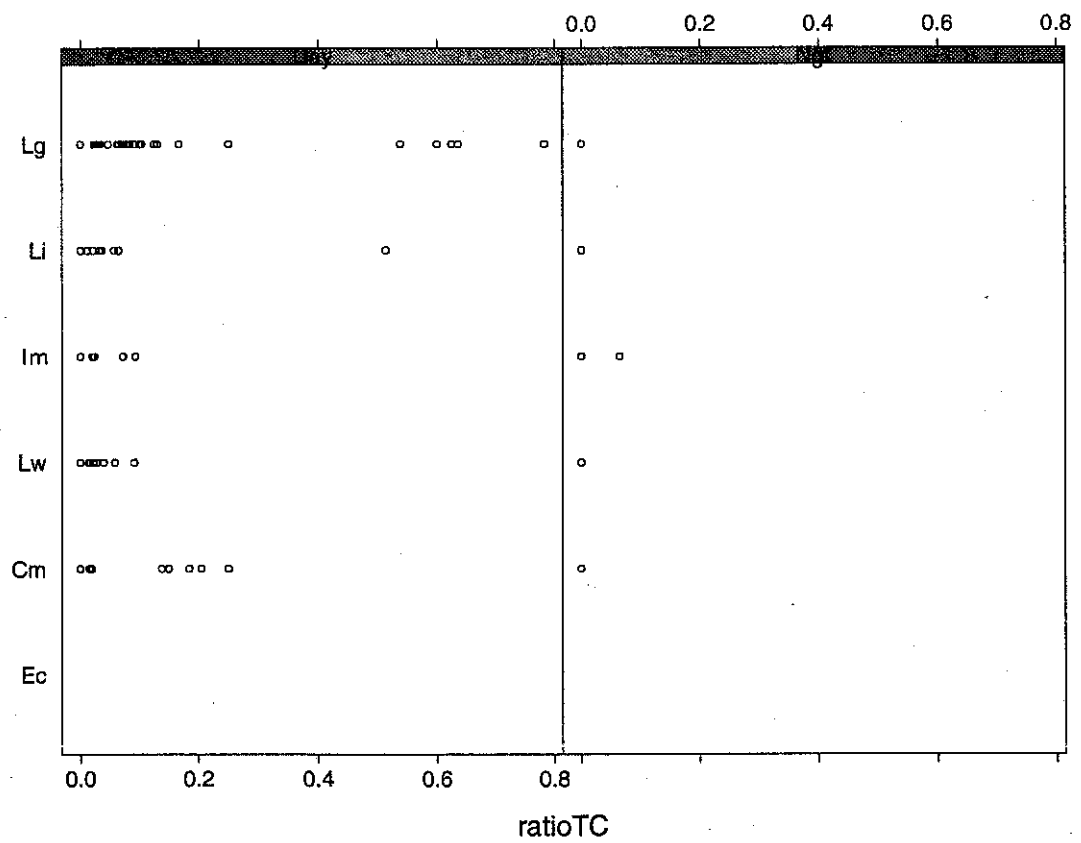


図11：未定学生の構成比

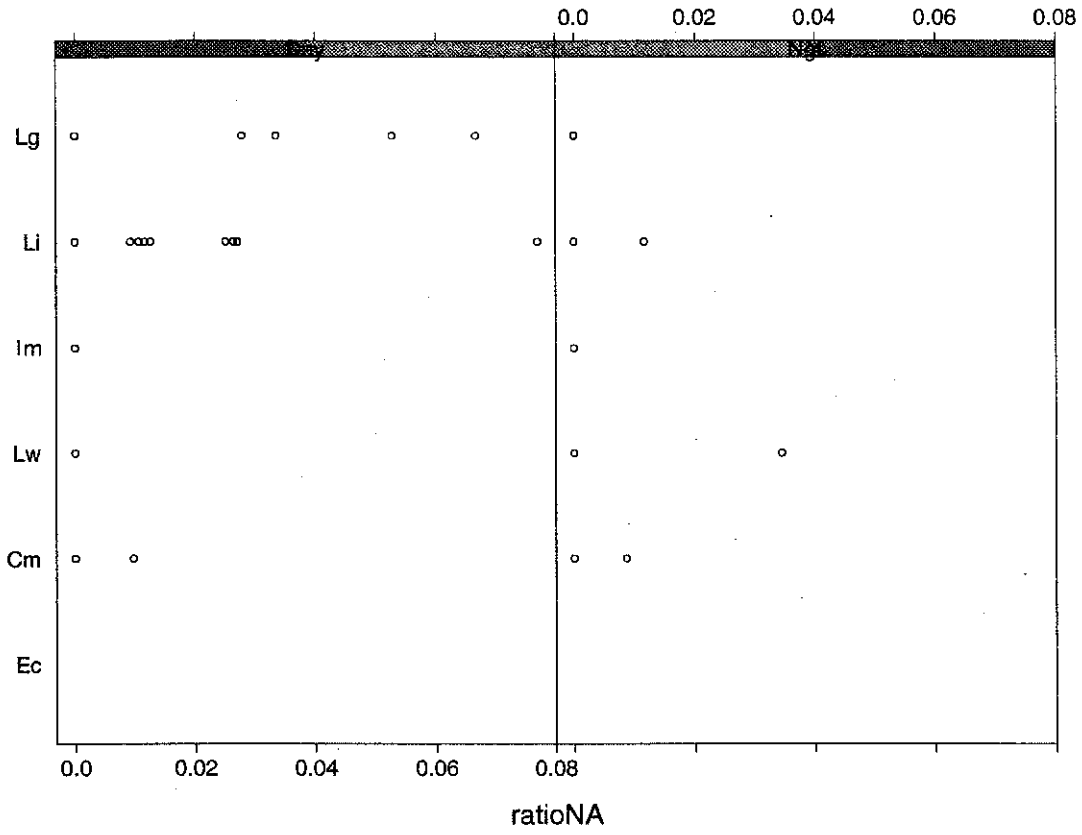


図12：「必修科目・選択必修科目であるため」の割合

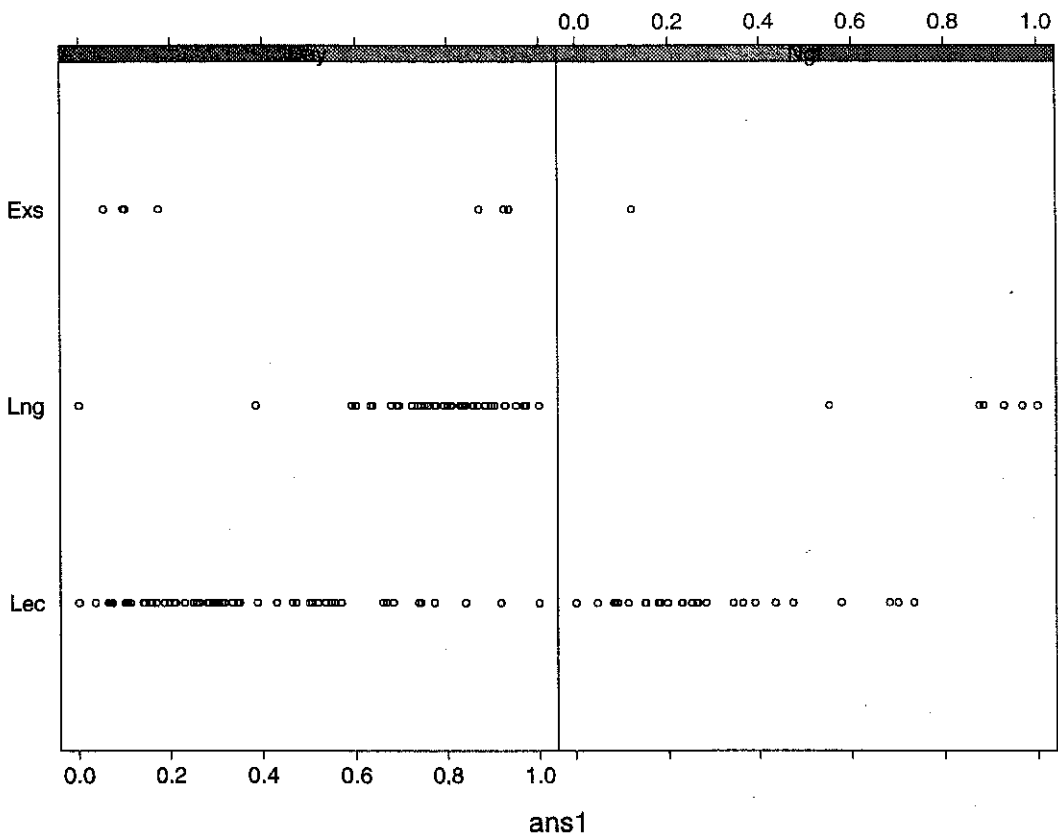


図13：「専門の勉強に必要なため」の割合

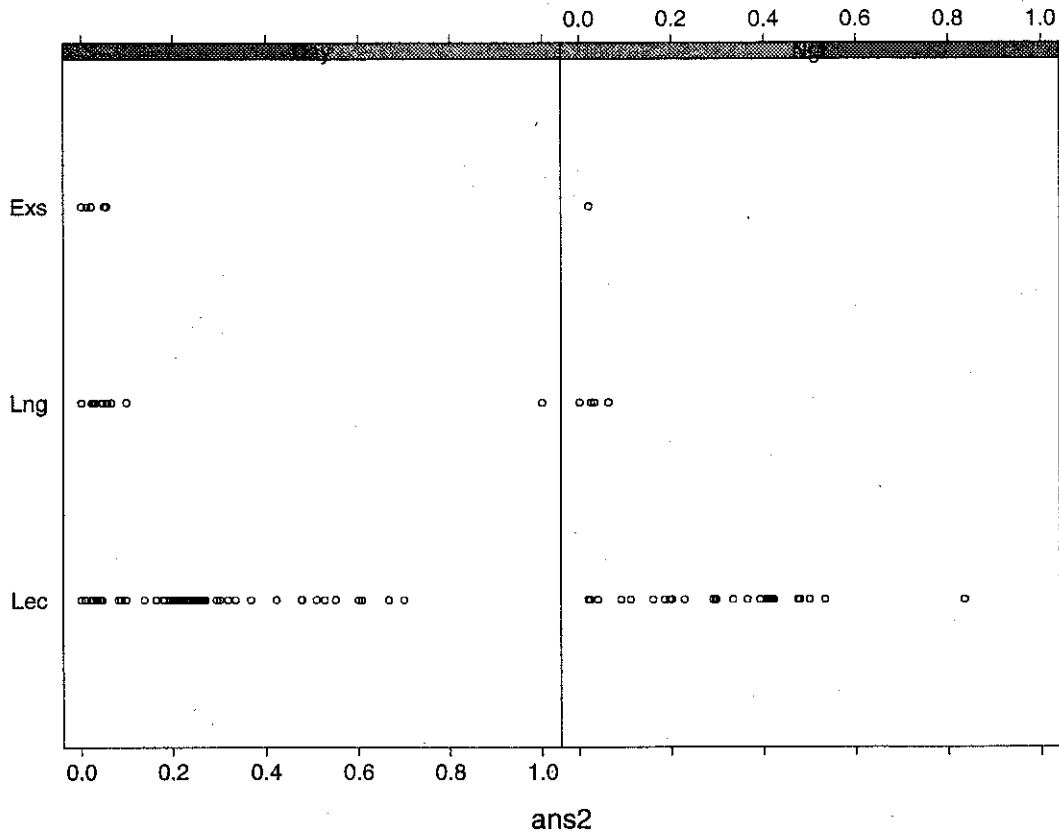


図14：「シラバスを読み興味を持ったため」の割合

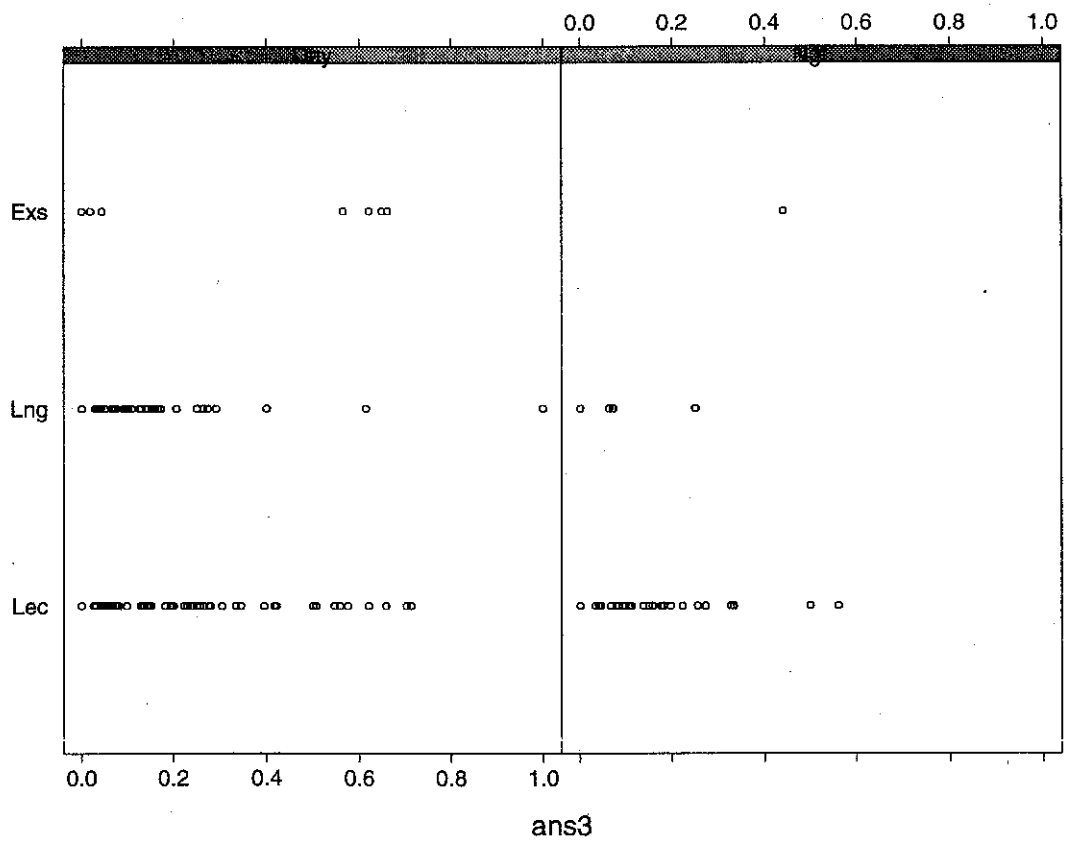


図15: 「授業時間の関係でとらざるをえなかった」の割合

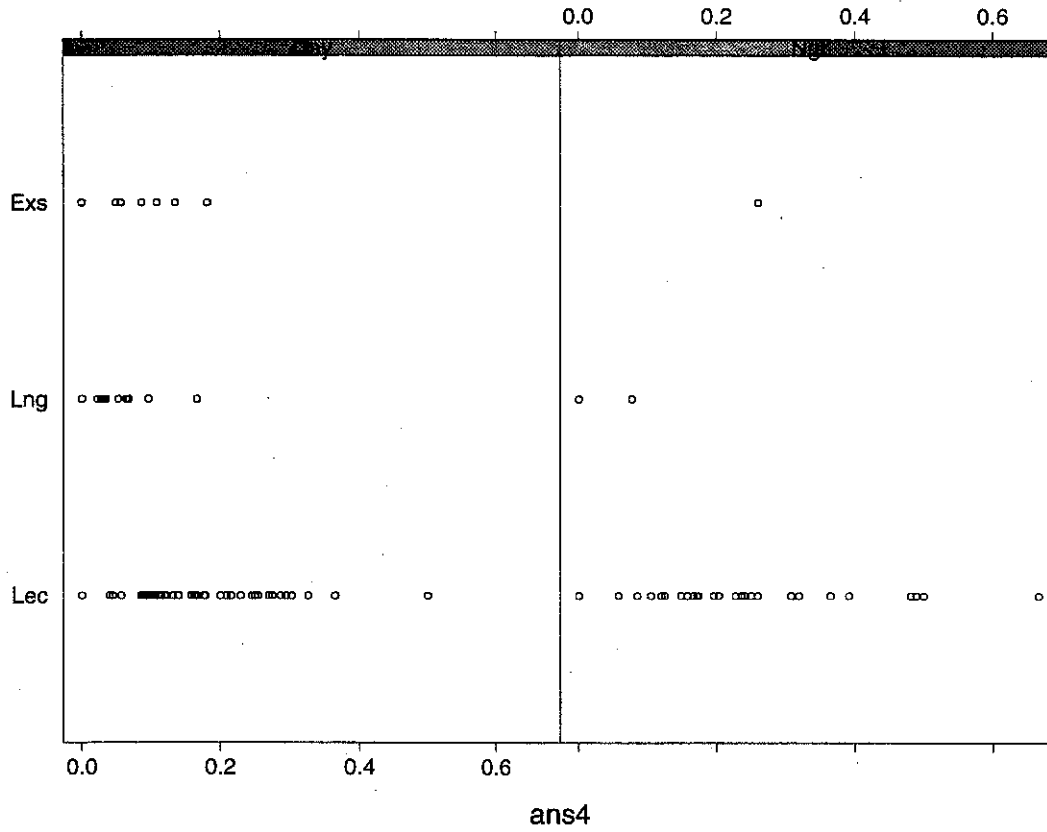


図16: 「その他」の割合

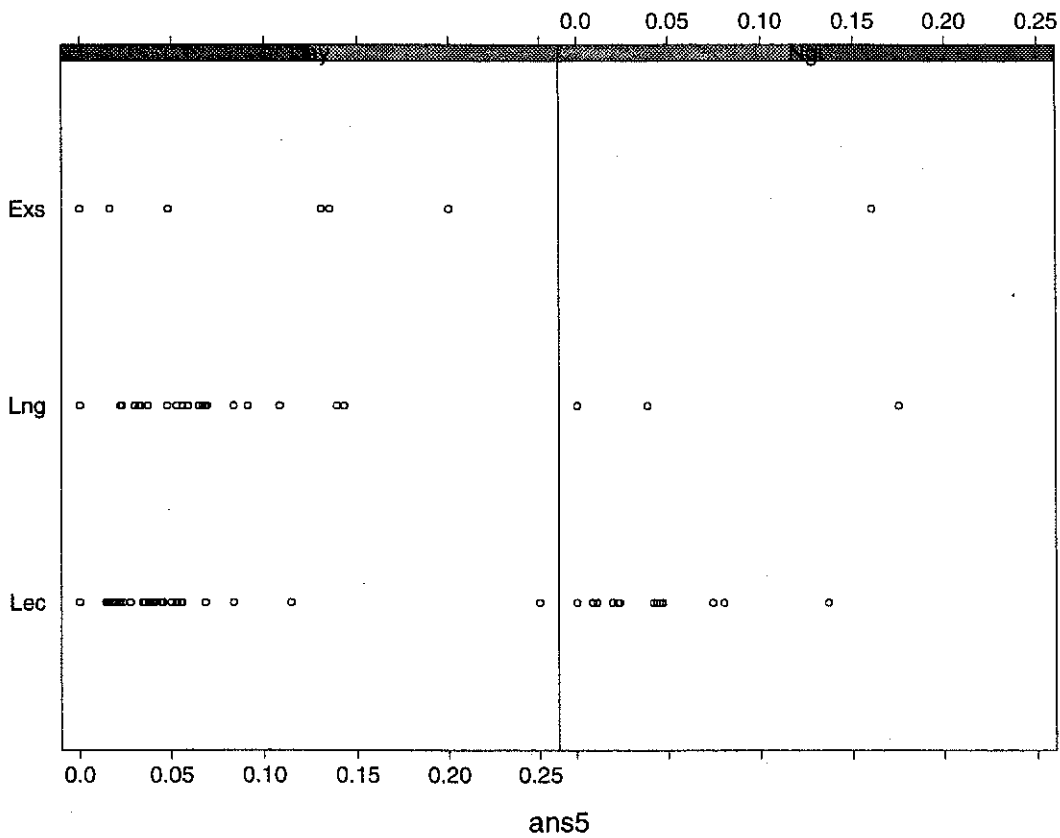


図17：平均出席率の分布

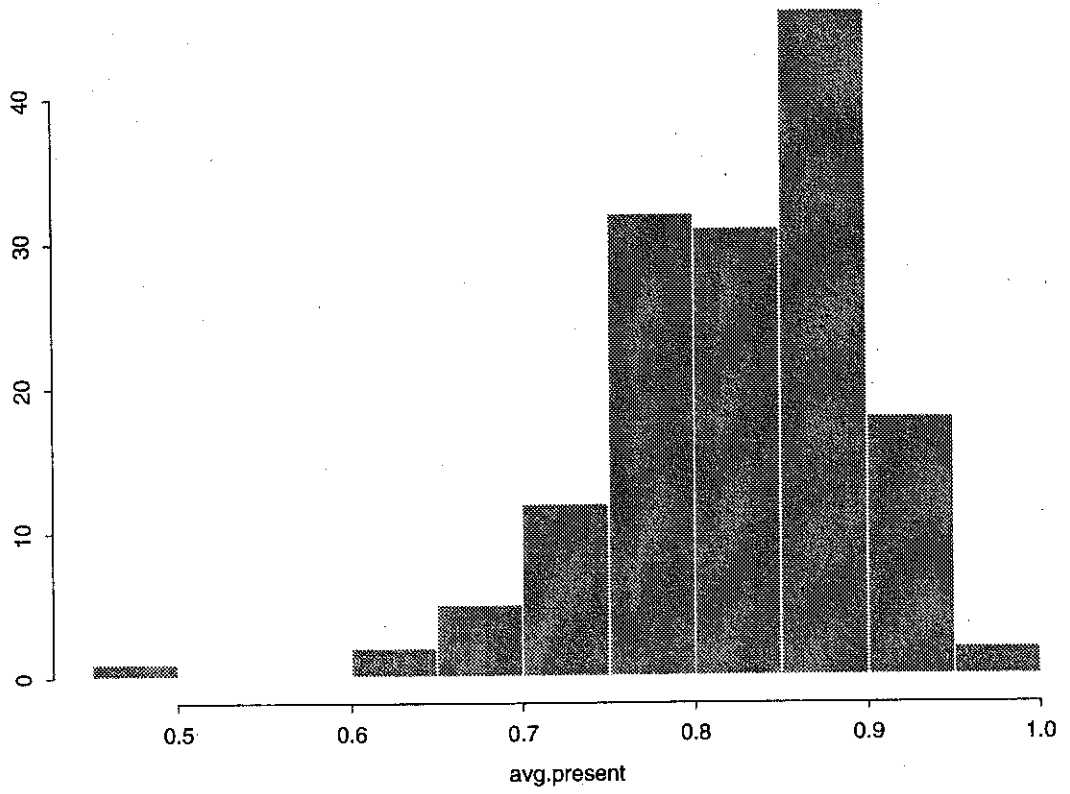


図18：学科コース別平均出席率

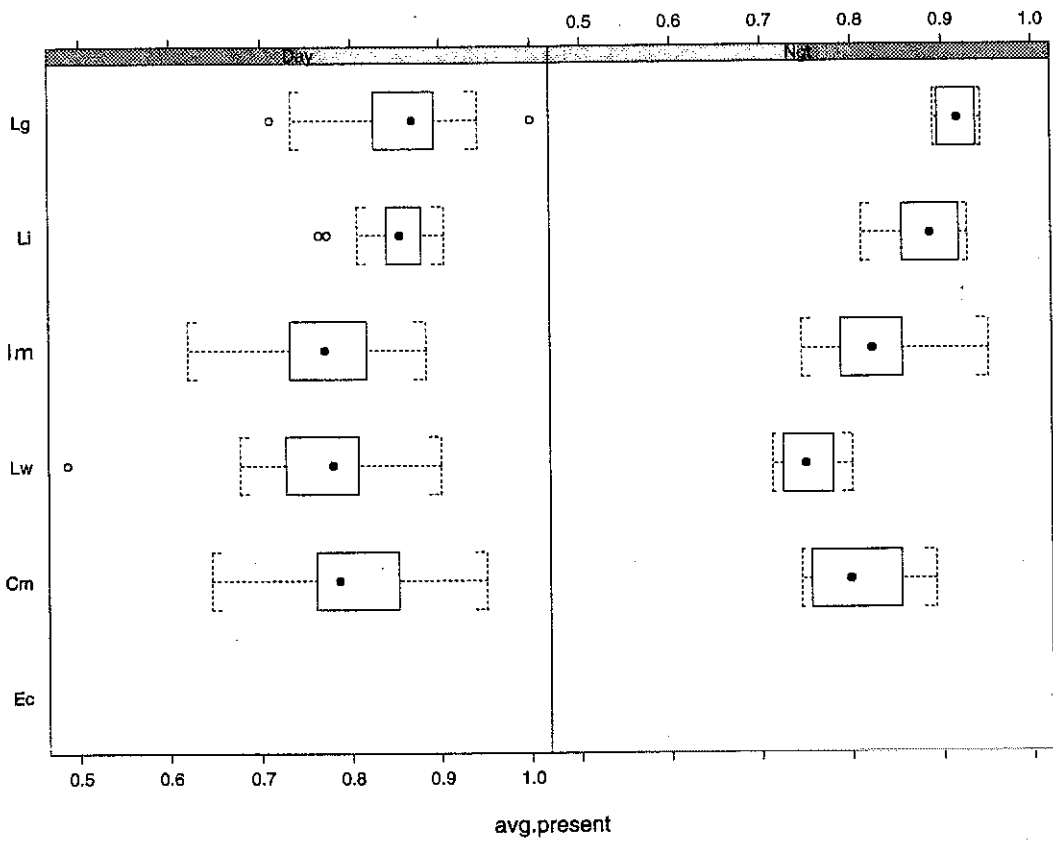


図19：「病気のため」欠席した者の割合

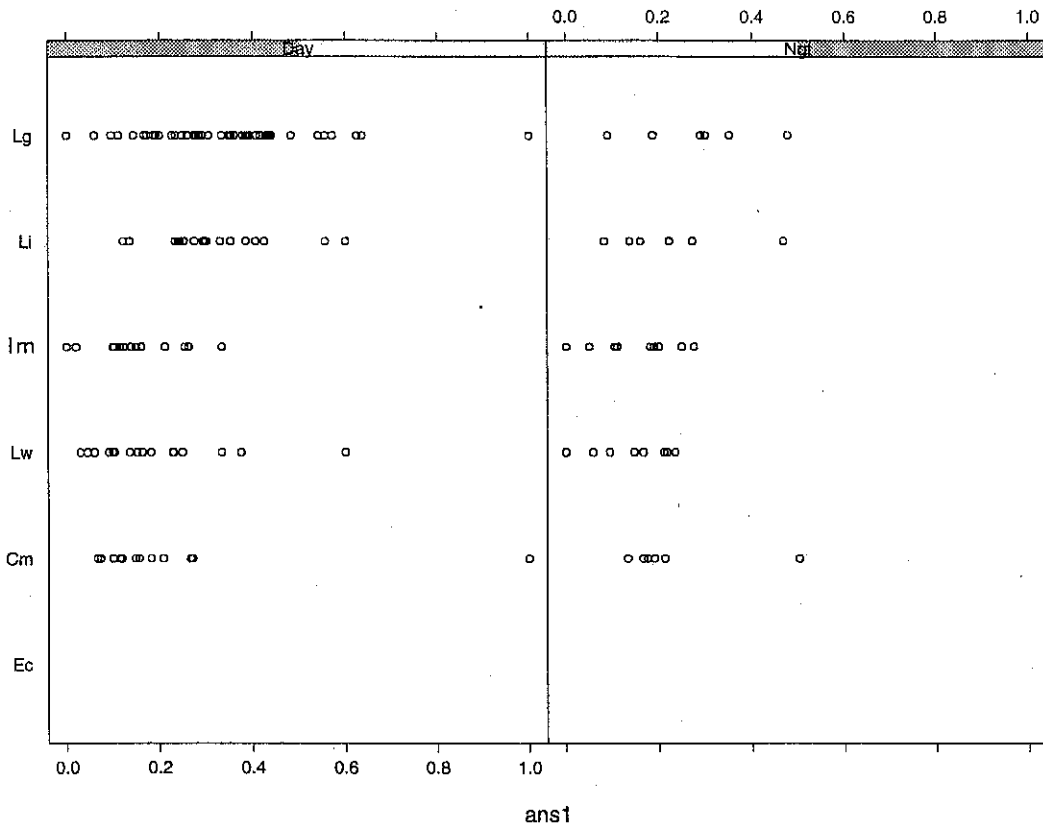


図20：学習態度は熱心だったか

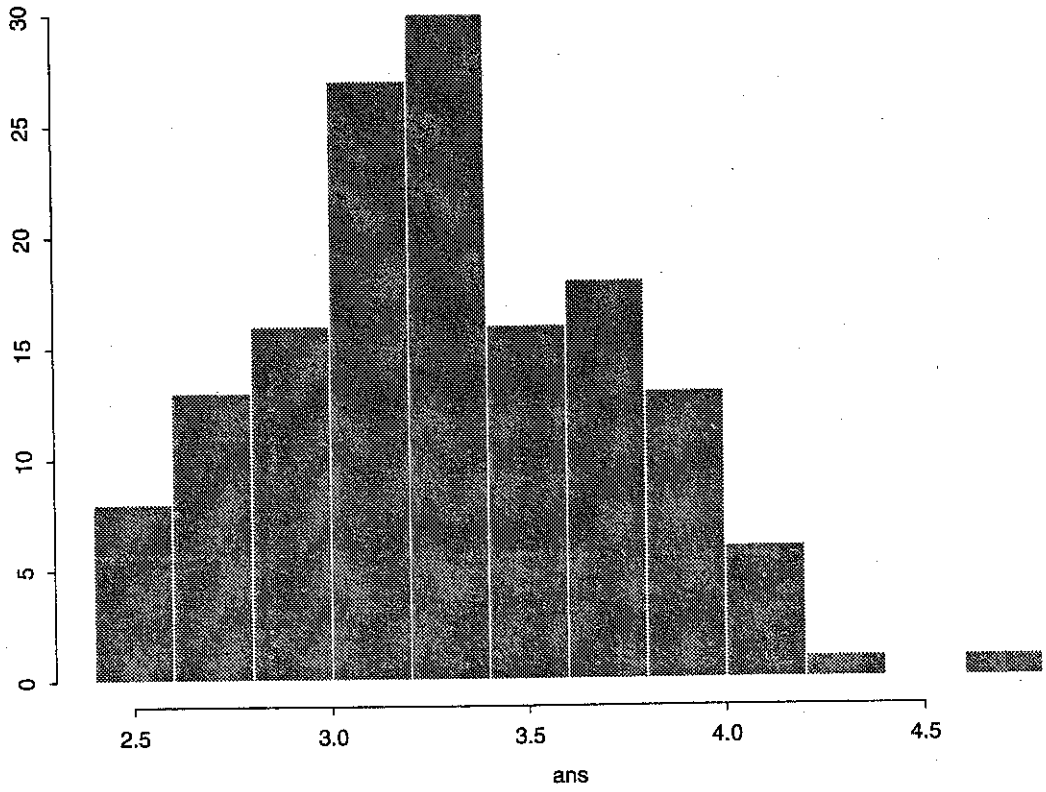


図21：平均的な学習態度の分布

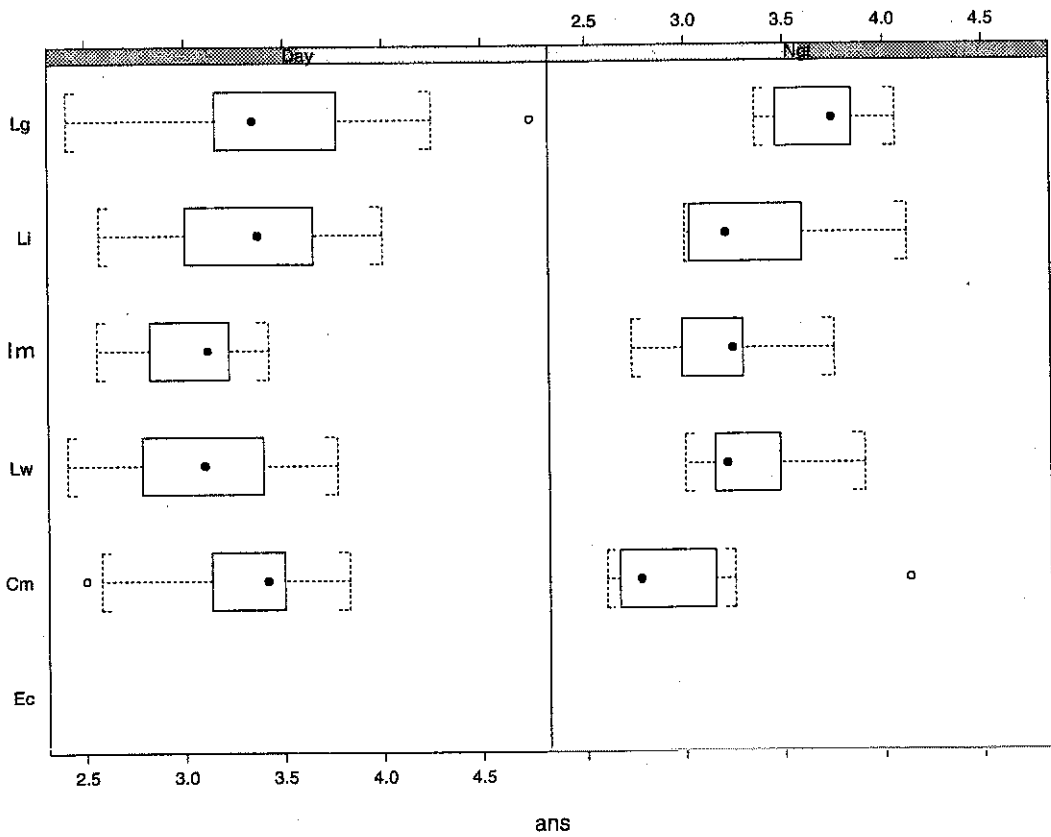


図22：予習復習をどの程度行ったか

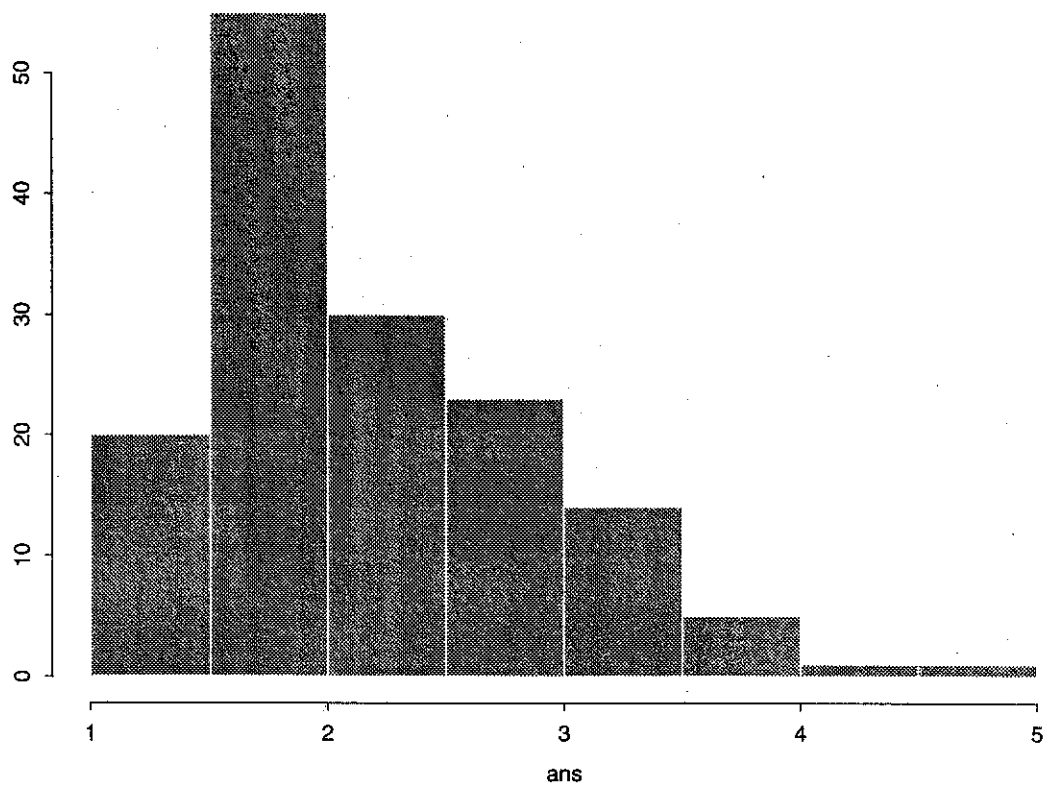


図23：学科コース別にみた予習復習を行った度合い

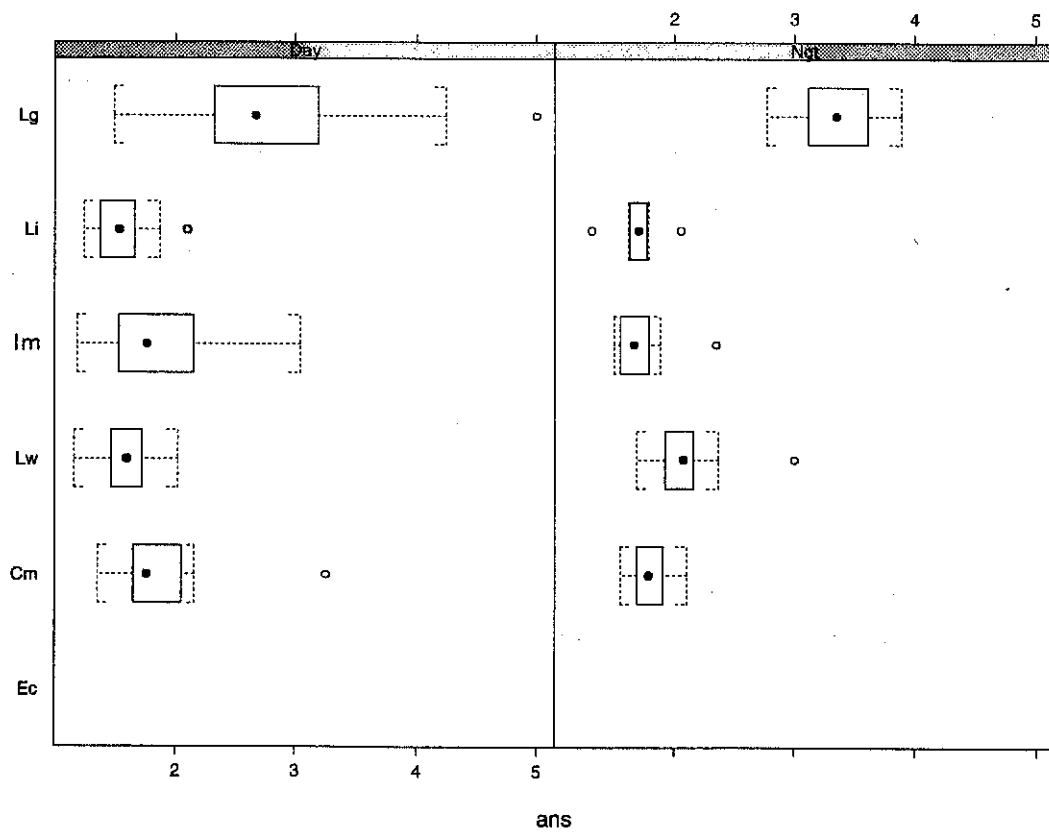


図24：授業に対する満足度の分布

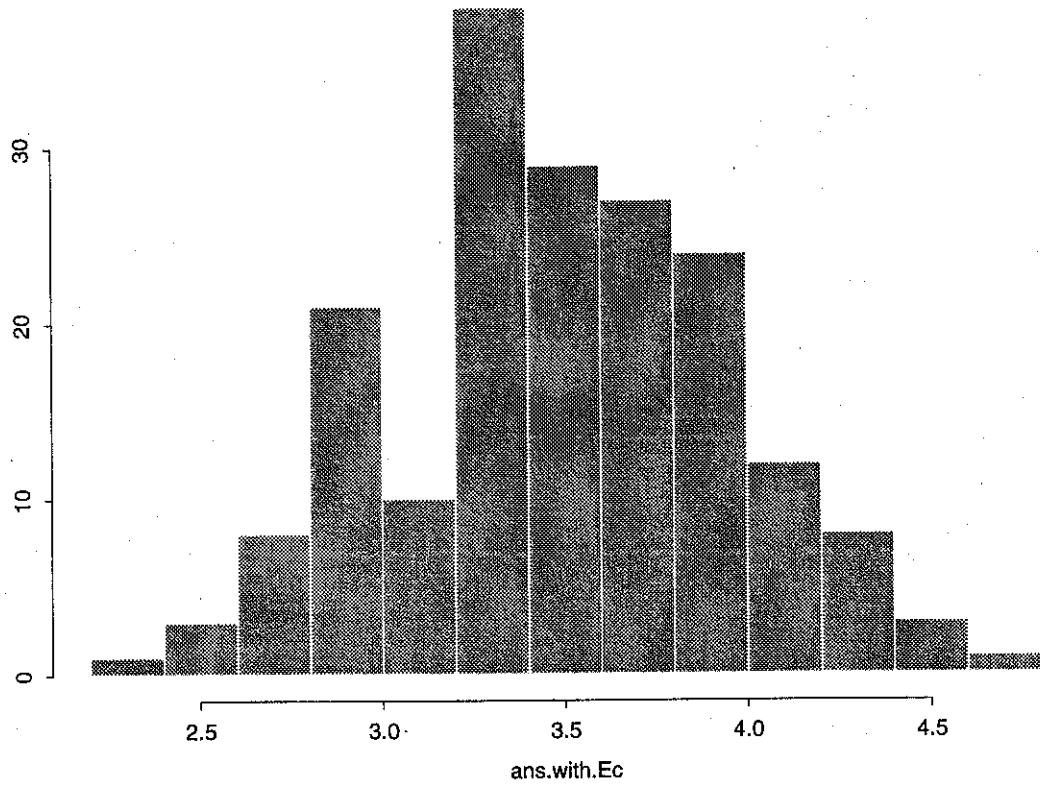


図25：授業への満足度の状況

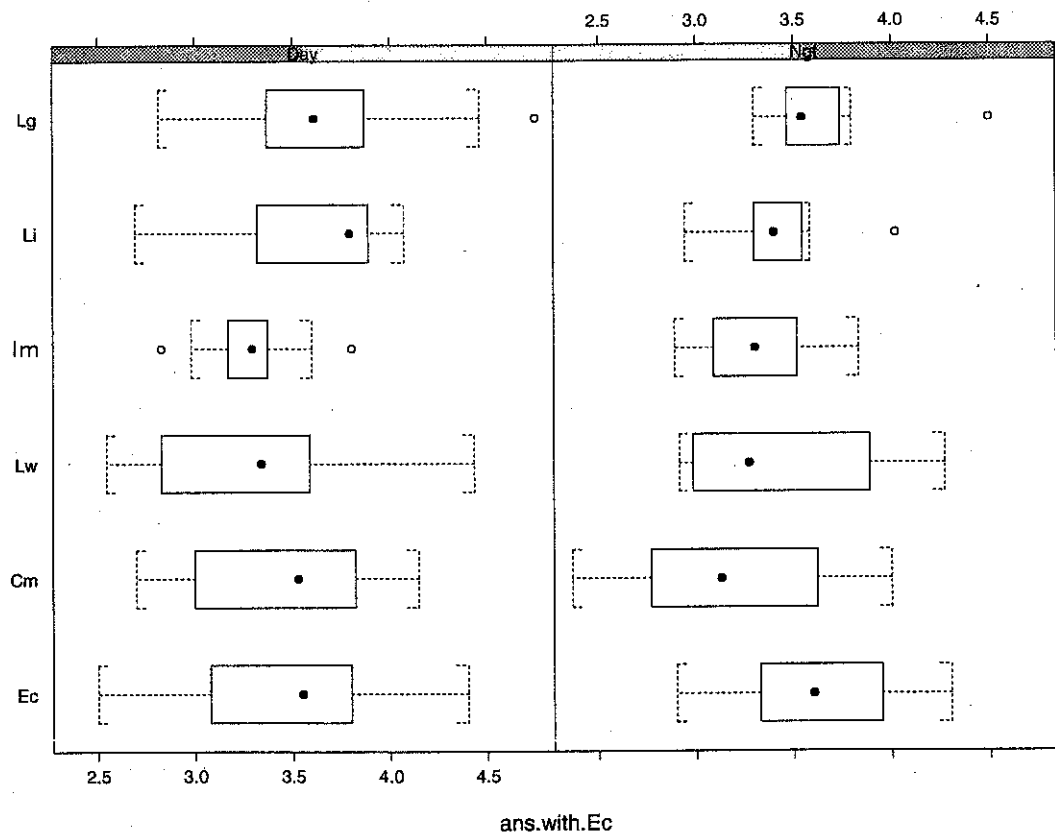


図26：講義内容は体系的だったか（全体の分布）

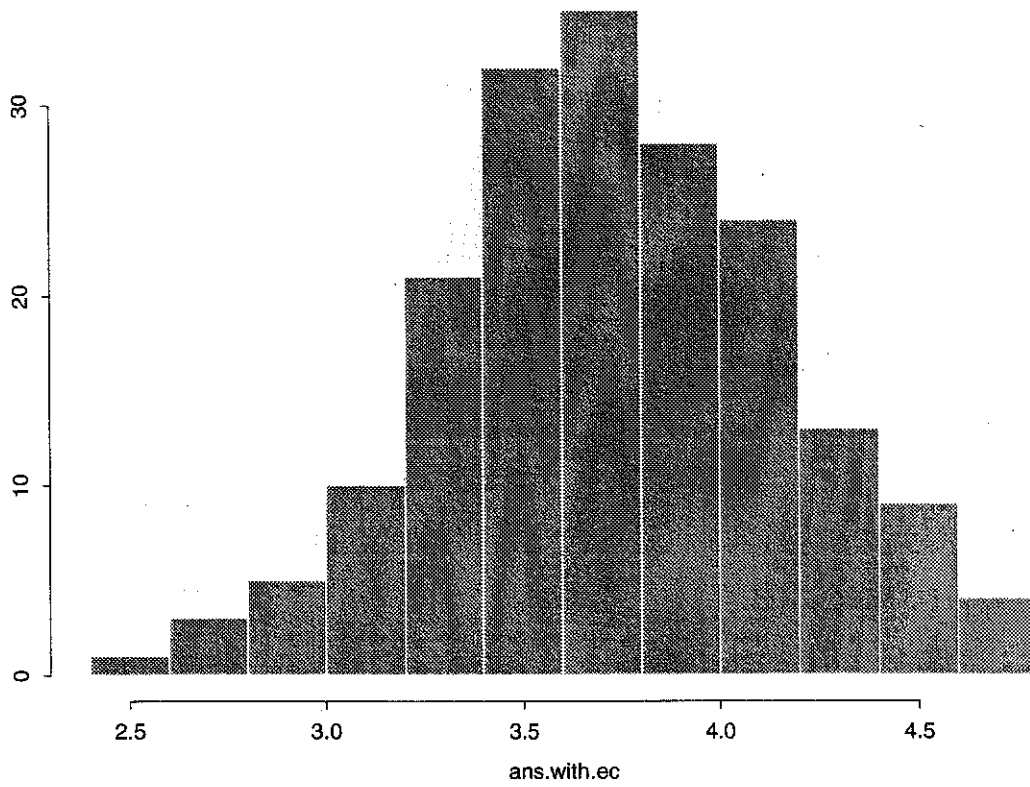


図27：講義内容は体系的だったか

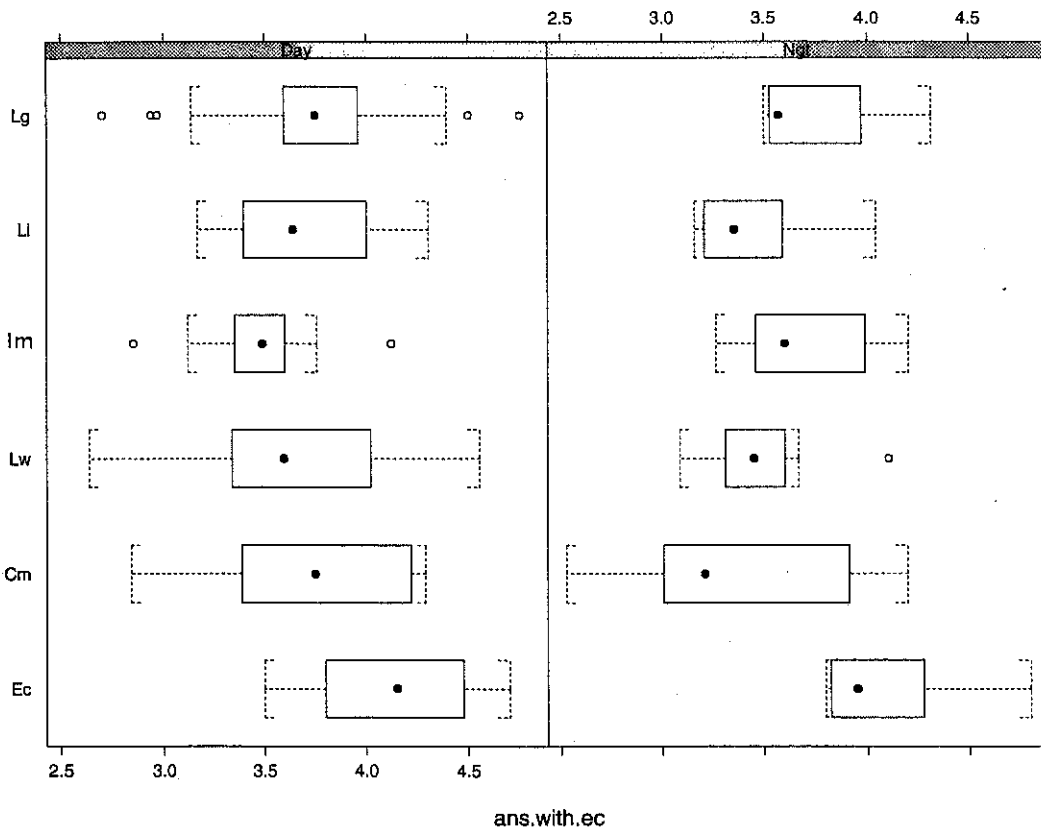


図28：授業内容は興味深いものだったか（全体の分布）

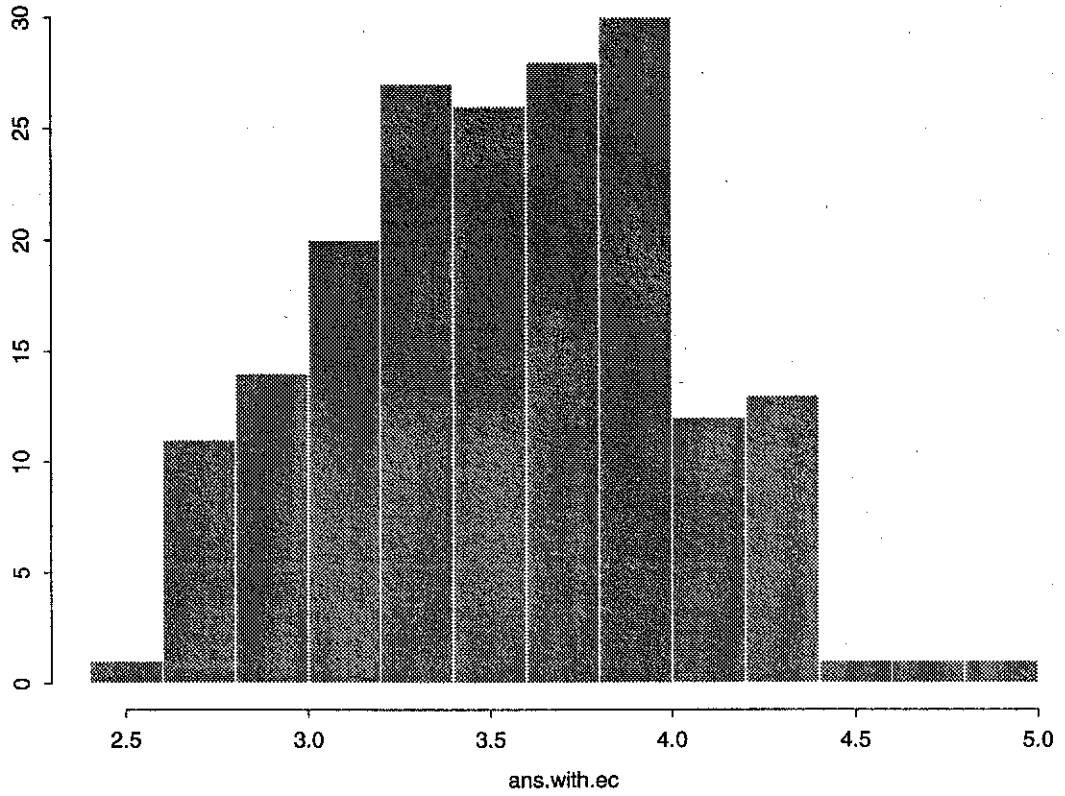


図29：授業内容は興味深かったか

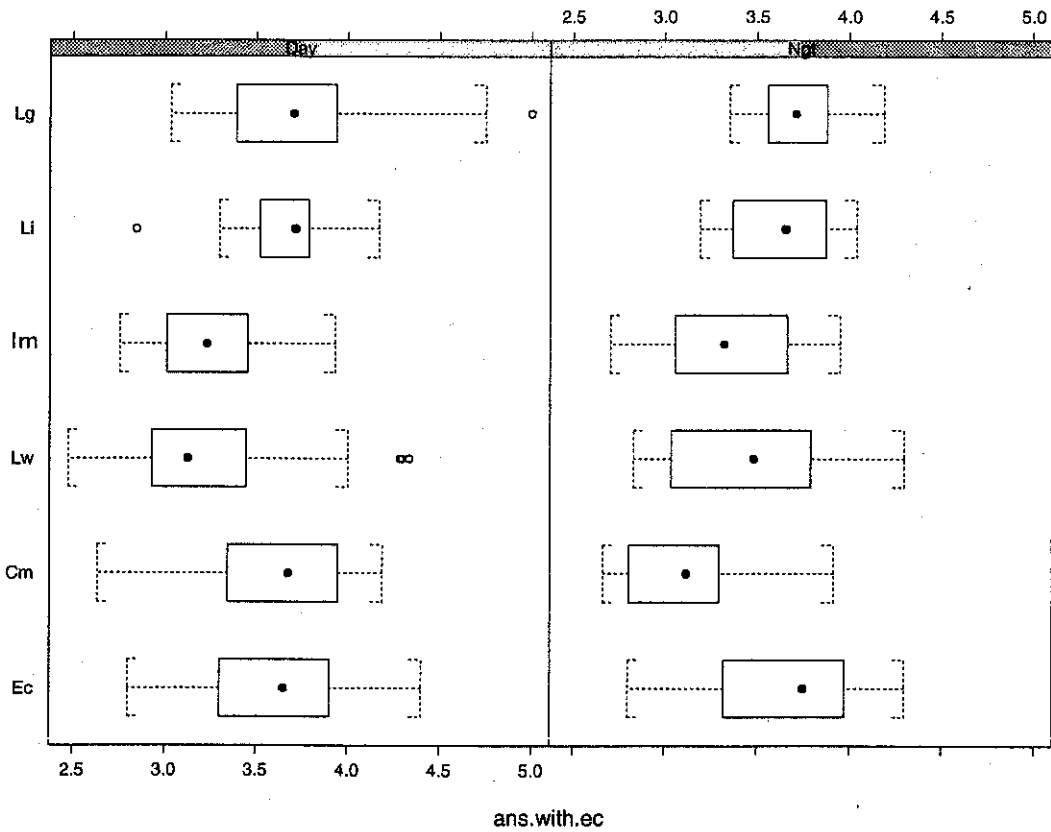


図30：授業は量的に適切だったか（全体の分布）

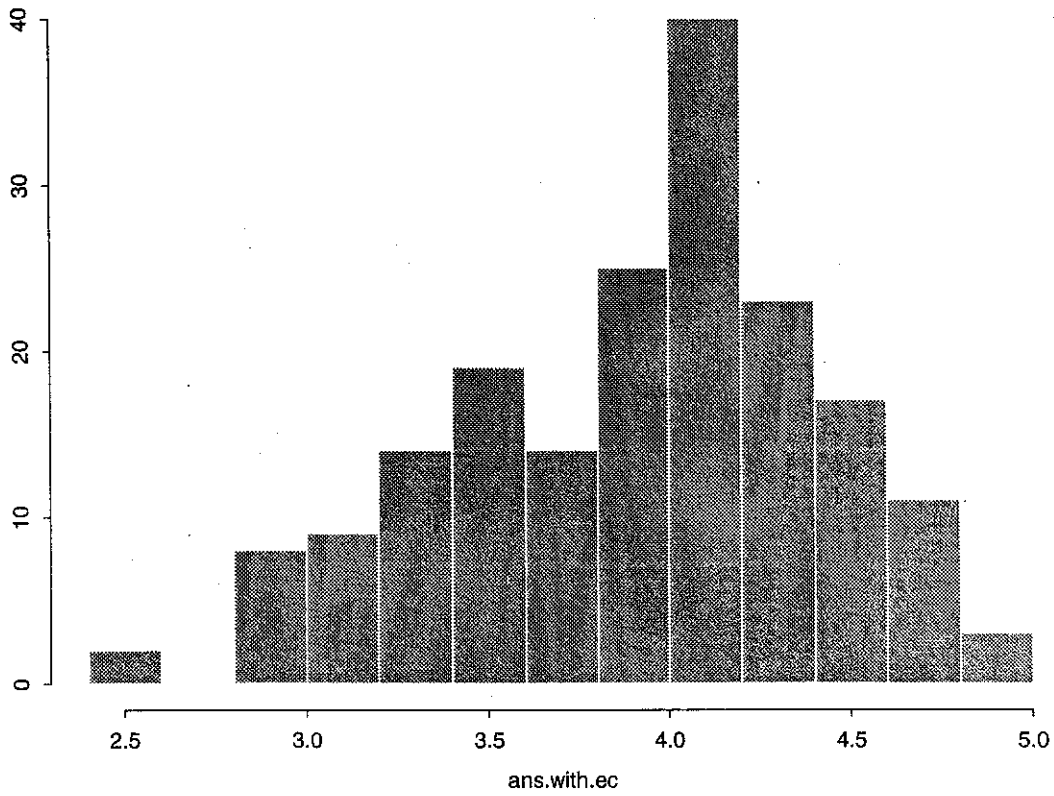


図31：授業は量的に適切だったか

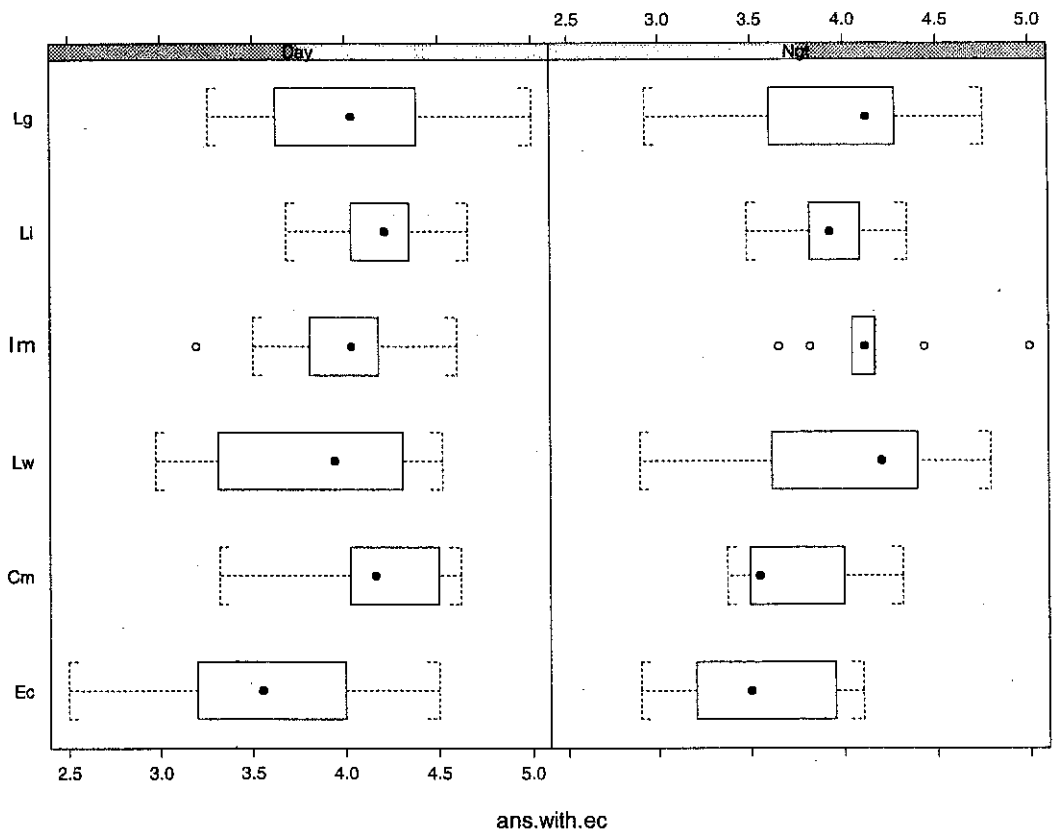


図32：講義内容は当初の授業計画に内容に沿ったものだったか（全体の分布）

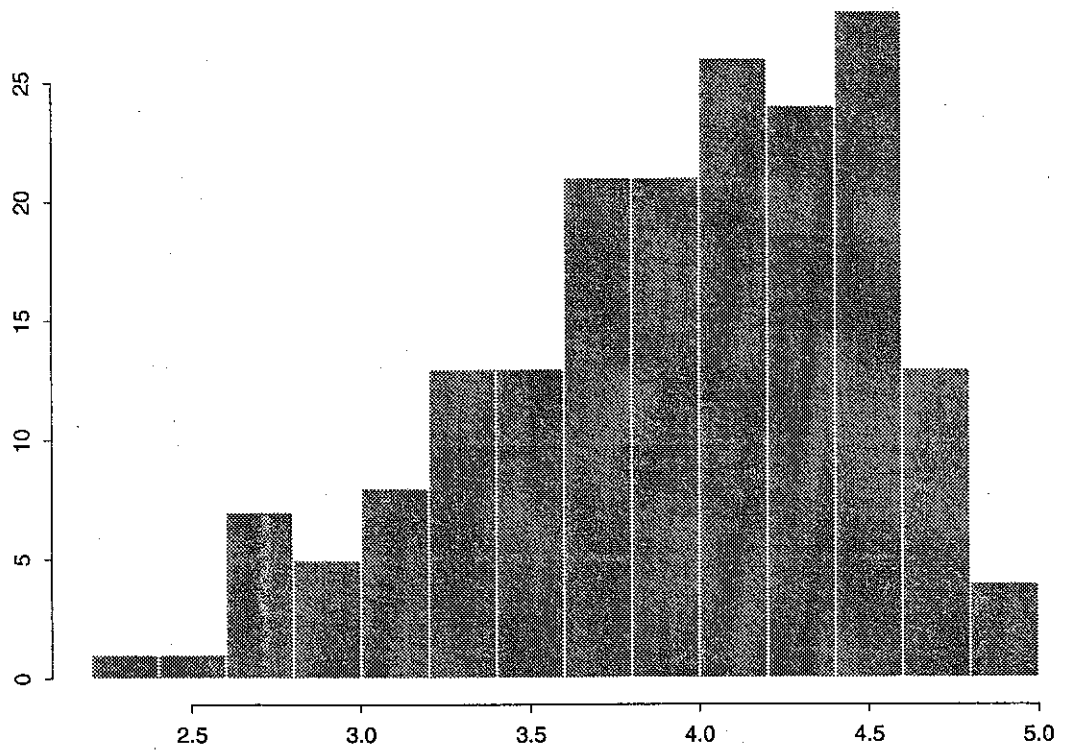
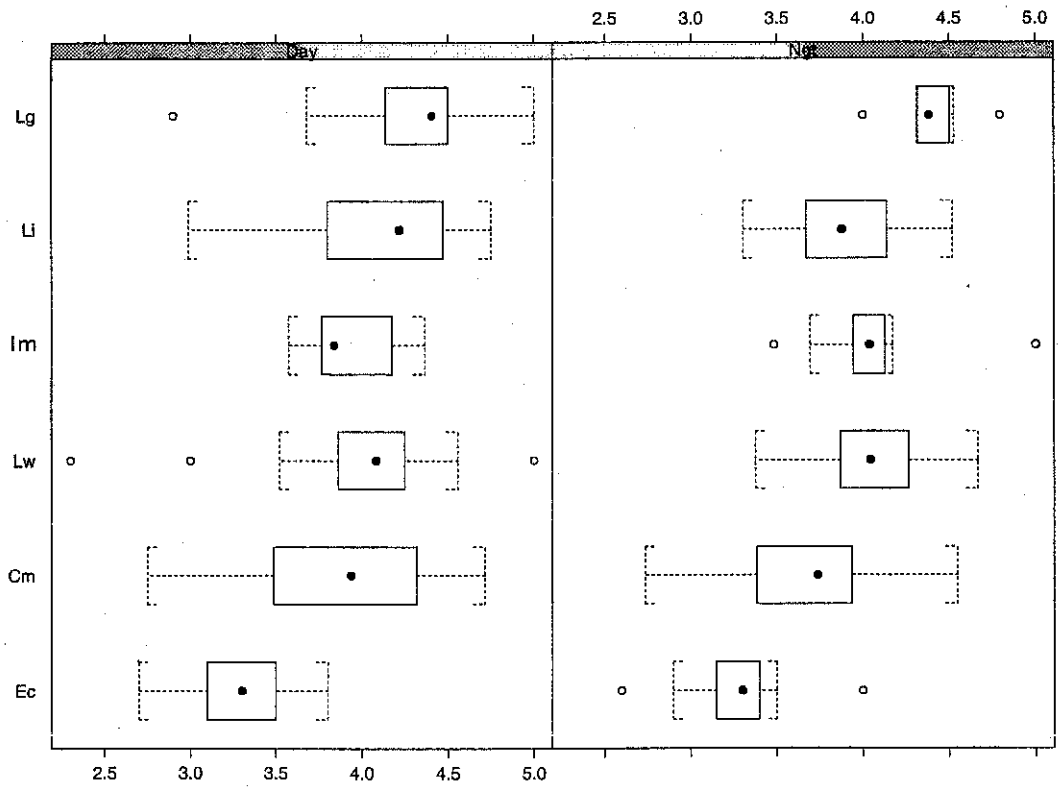


図33：講義内容は当初の授業計画に沿ったものだったか



ans.with.ec

図34：教師の話し方は適切だったか（全体の分布）

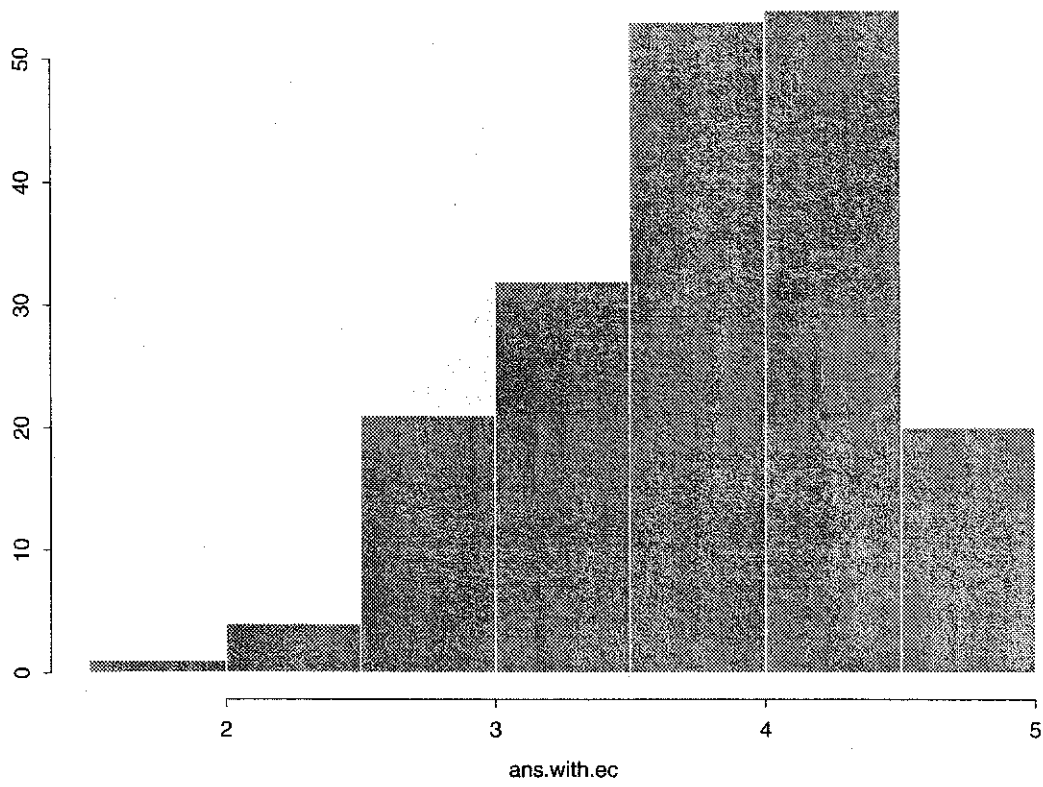


図35：話し方の適切さ（学科コース別）

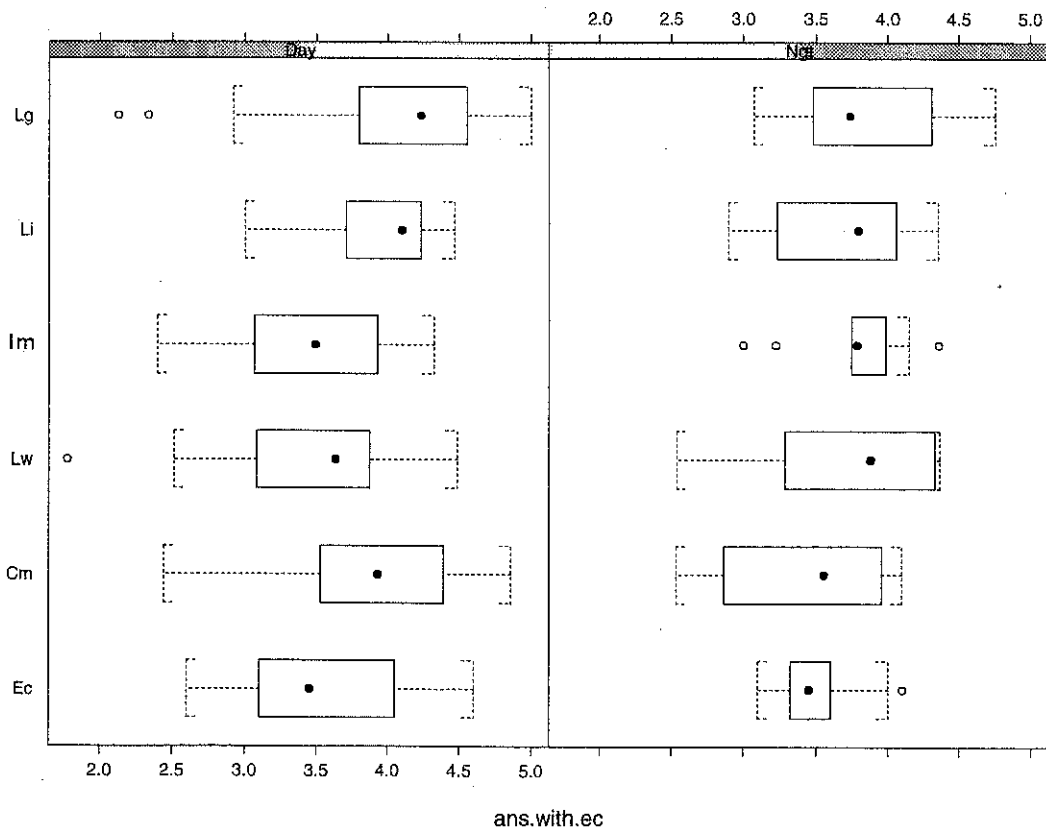


図36：テキスト・プリント等は適切に使われたか

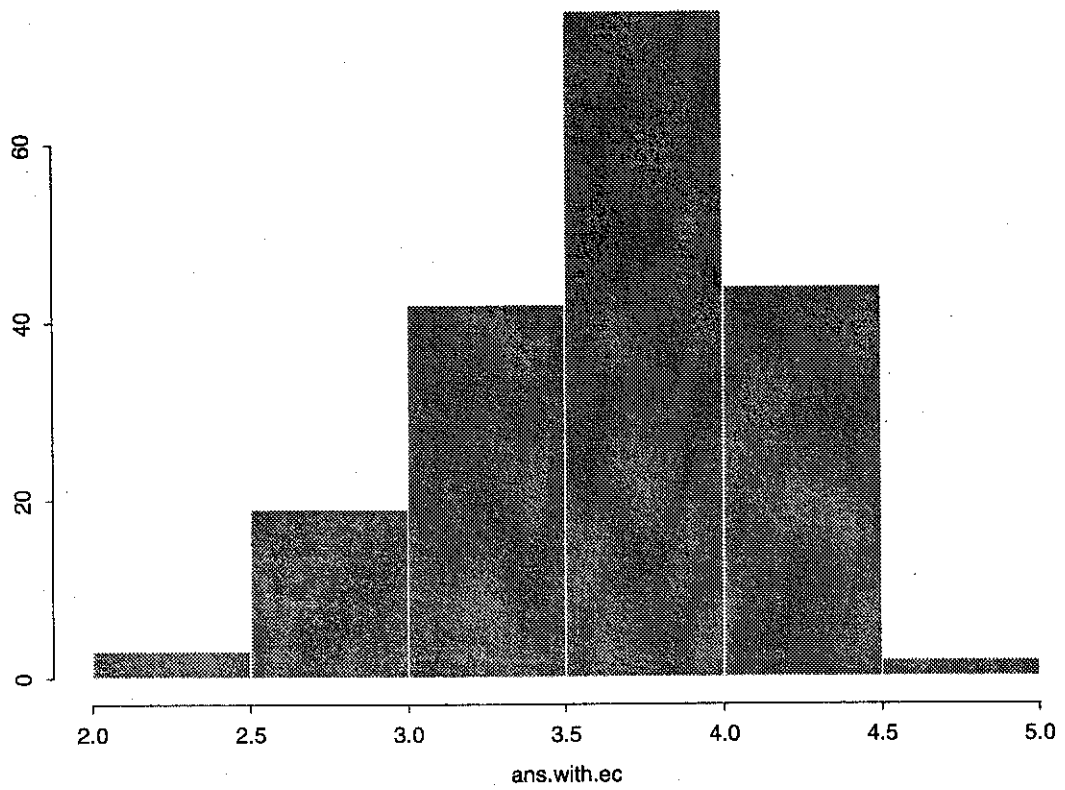


図37：テキスト・プリント使用の適切さ（学科コース別）

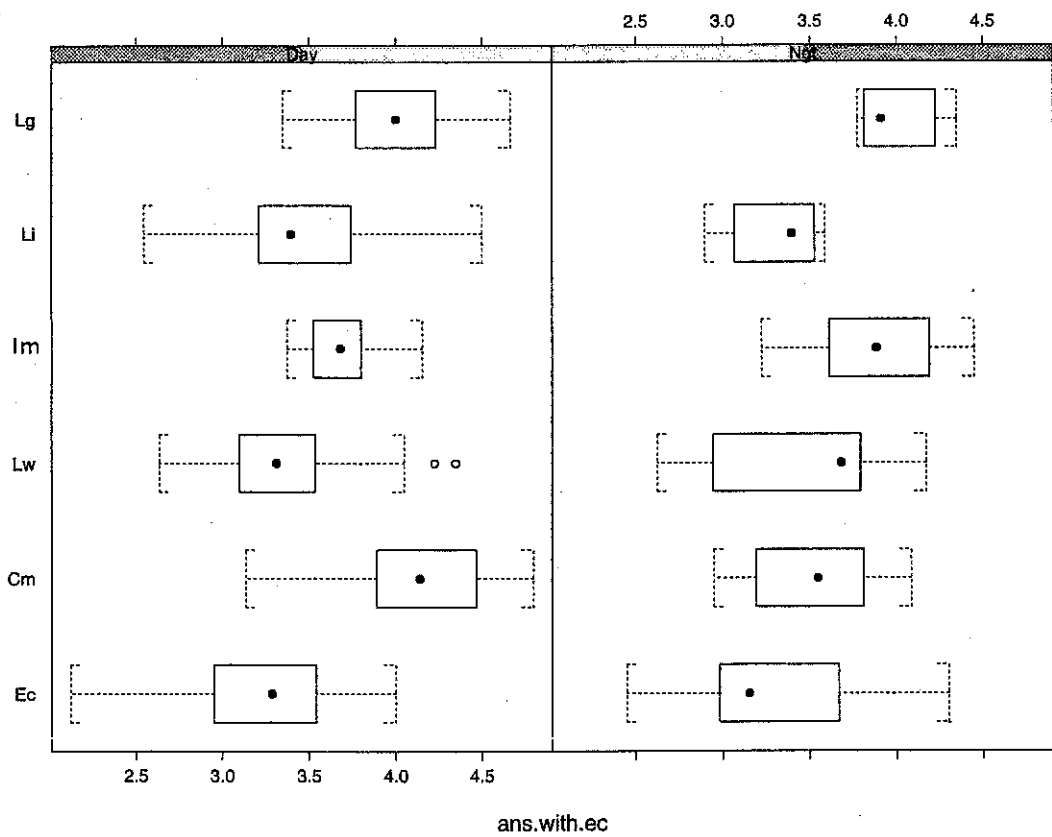


図38：黒板，OHP，ビデオ装置等の使い方は適切だったか（全体の分布）

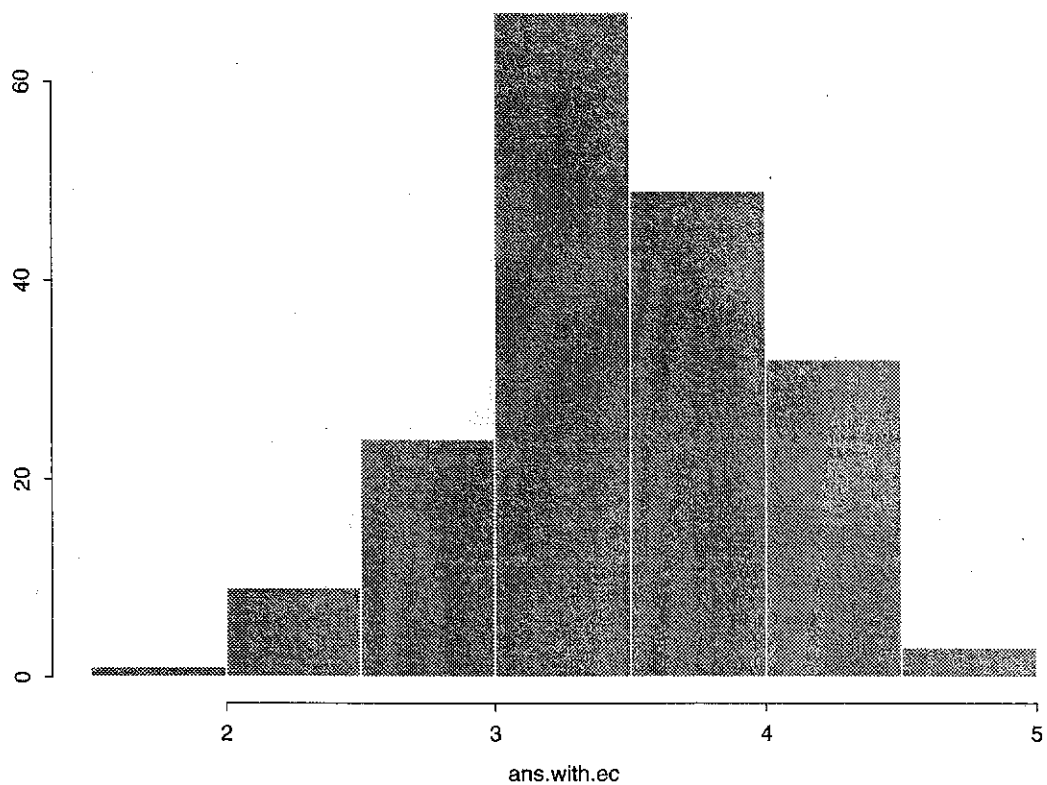


図39：黒板，OHP，ビデオの使用は適切だったか（学科コース別）

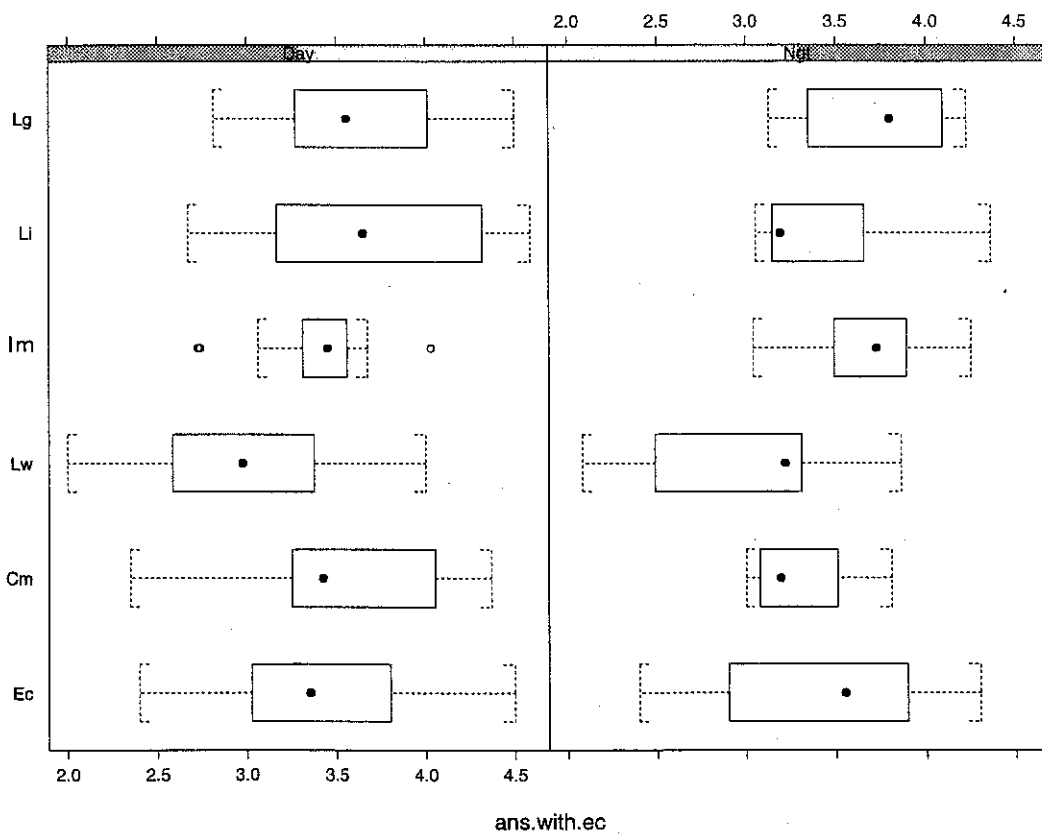


図40：教師は学生の反応を見ながら授業を進めたか（全体の分布）

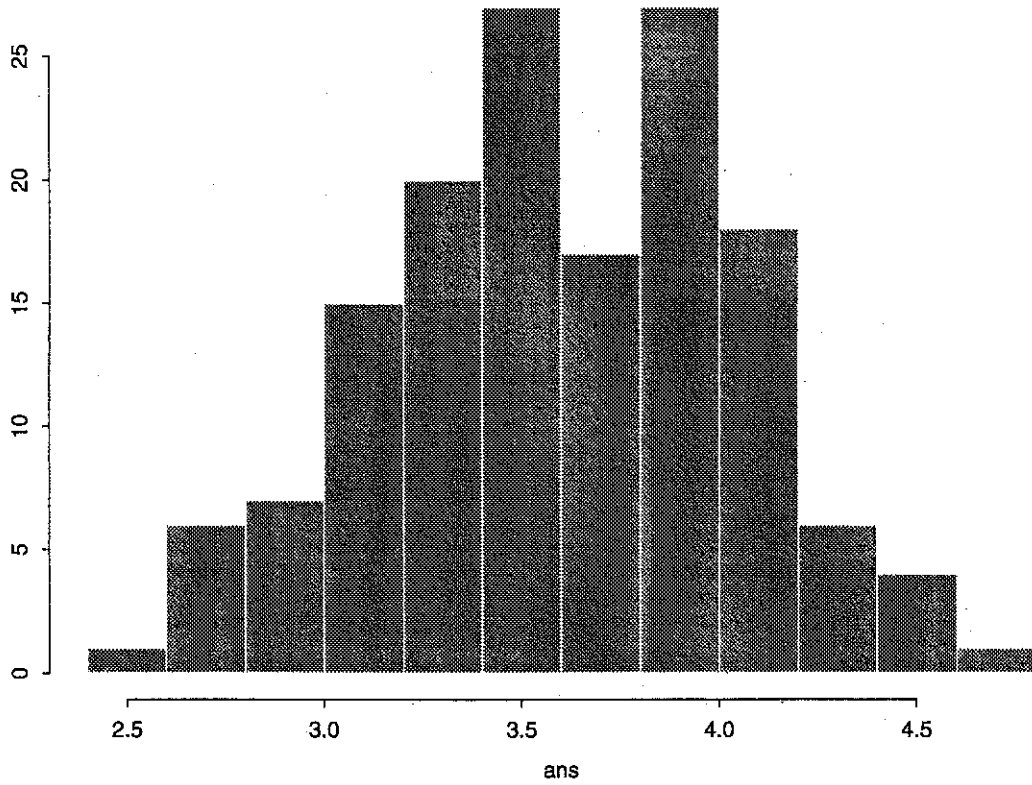
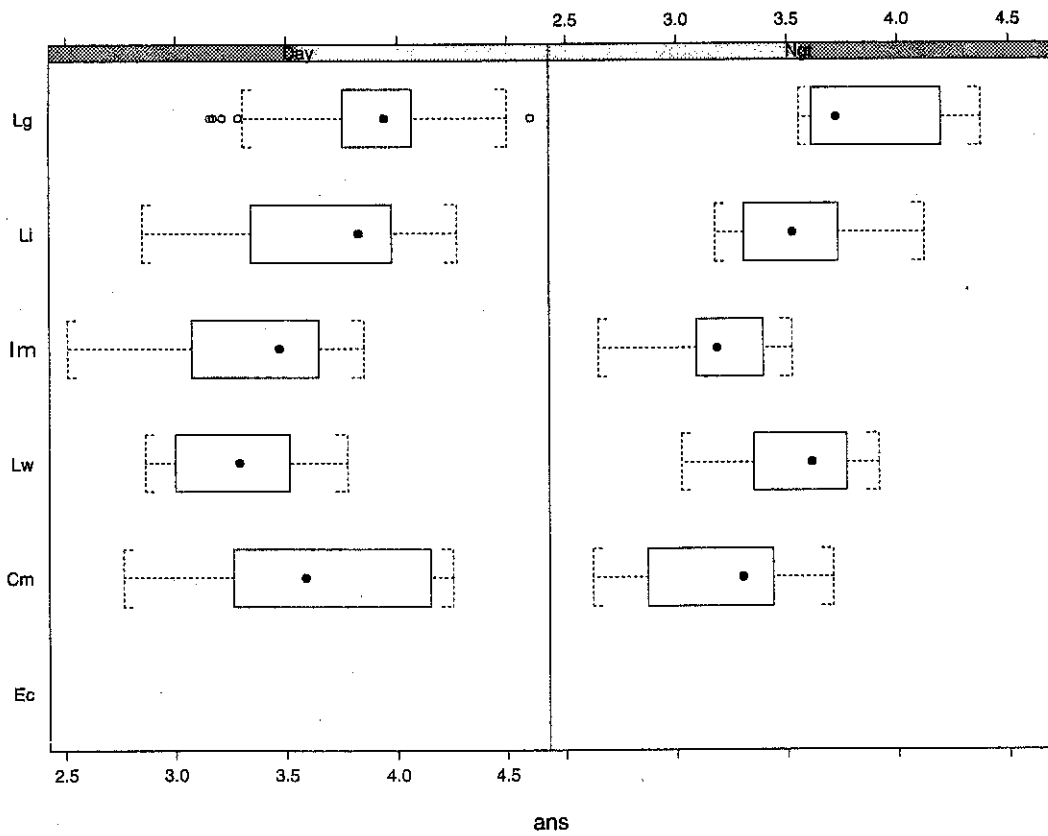


図41：教師は学生の反応を見ながら授業を進めたか（学科コース別）



参考資料 1

授業改善のためのアンケート〈個別型・講義科目〉

本学の自己評価委員会ではより良い授業を目指して全学的な取り組みを始めました。このアンケートはその一環として実施するものです。回答内容は授業の改善に役立てるためのものであり、それ以外に使われることはありません。率直なご意見をお寄せ下さい。

3枚目の回答用紙に記入の上、回答用紙のみを提出して下さい。

I あなた自身についてお尋ねします。

(1) 入学年度はいつですか。(学生番号の最初の2桁)

- ①97年 ②96年 ③95年 ④94年 ⑤93年以前

(2) どの学科・課程に所属していますか。

- ①経済学科 ②商学科 ③企業法学科 ④社会情報学科
⑤商業教員養成課程 ⑥未定

(3) どのコースに所属していますか。

- ①昼間コース ②夜間主コース

II 講義の選択理由についてお尋ねします。

(1) なぜこの講義を選択しましたか。

- ①必修科目・選択必修科目であるため ②専門の勉強に必要と考えたため
③シラバス(授業計画を記載した冊子)を読み、興味をもったため
④授業時間割の関係でとらざるをえなかったため ⑤その他_____

III 学習態度についてお尋ねします。

(1) あなたはこの講義にどの位出席しましたか。

- ①ほぼ100%出席した ②80%位出席した ③50%位出席した
④30%位出席した ⑤ほとんど出席しなかった

(2) 欠席した主な理由は何ですか。

- ①病気のため ②教育実習・短期海外留学のため ③サークル活動のため
④アルバイトのため ⑤自己の怠惰のため ⑥その他_____

(3) 学生(あなた自身および他の学生)の学習態度は全体として熱心であったと思いますか。

- ①非常に熱心であった ②かなり熱心であった ③どちらともいえない
④あまり熱心でなかった ⑤熱心でなかった

(4) 学生の学習態度について、どのような点を改善すべきであると思いますか。

(5) 授業の予習または復習として、授業時間外の学習を行いましたか。

- ①毎回、十分に行った ②ほぼ毎回、行った ③ときどき行った
④ごくまれにしか行わなかった ⑤ほとんど行わなかった

(6) 前問で④または⑤と回答した方にお尋ねします。なぜ予習または復習を行わなかったのですか。

- ①自己の怠慢のため ②サークル活動のため ③アルバイトのため
④必要を感じなかったため ⑤その他_____

IV 講義の満足度についてお尋ねします。

- (1) 総合的に判断して、この講義にどの程度満足できましたか。
- ①非常に満足できた ②かなり満足できた ③どちらともいえない
④やや不満であった ⑤非常に不満であった
- (2) この講義はどのような点が良かったですか。(複数回答可)
- ①講義がわかりやすかった ②知的関心を高めてくれた ③話が楽しかった
④まじめに講義をしてくれた ⑤その他 _____
- (3) この講義はどのような点が良くなかったですか。(複数回答可)
- ①講義がわかりにくかった ②興味をもたせる工夫が不足していた
③話が単調すぎた ④休講が多かった ⑤その他 _____

V 講義内容についてお尋ねします。

- (1) 講義内容は体系的でしたか。
- ①非常に体系的であった ②かなり体系的であった ③どちらともいえない
④あまり体系的でなかった ⑤まったく体系的でなかった ⑥出席不足のためわからない
- (2) 講義内容は興味深いものでしたか。
- ①非常に興味深かった ②かなり興味深かった ③どちらともいえない
④それほど興味深くなかった ⑤まったく興味深くなかった ⑥出席不足のためわからない
- (3) 講義内容は量的に適切でしたか。
- ①非常に多すぎた ②やや多すぎた ③適量であった
④やや少なすぎた ⑤きわめて少なすぎた ⑥出席不足のためわからない
- (4) 講義内容は当初の授業計画等に沿ったものでしたか。
- ①ほぼ沿ったものであった ②80%位沿ったものであった ③50%位沿ったものであった
④30%位沿ったものであった ⑤ほとんど無関係であった ⑥出席不足のためわからない

VI 講義の方法についてお尋ねします。

- (1) 教師の話し方は適切でしたか。
- ①非常に聞きやすかった ②かなり聞きやすかった ③どちらともいえない
④やや聞きにくかった ⑤非常に聞きにくかった
- (2) テキスト、プリント等は適切に使われましたか。
- ①非常に適切であった ②かなり適切であった ③どちらともいえない
④やや不適切であった ⑤非常に不適切であった
- (3) 黒板、OHP、ビデオ装置等の使い方は適切でしたか。
- ①非常に適切であった ②かなり適切であった ③どちらともいえない
④やや不適切であった ⑤非常に不適切であった
- (4) 教師は学生の反応を見ながら講義を進めていましたか。
- ①絶えず注意を払っていた ②かなり注意を払っていた ③どちらともいえない
④あまり注意を払っていなかった ⑤まったく注意を払っていなかった

VII その他、授業等について改善して欲しい点、または良かった点等を自由にお書き下さい。

授業改善のためのアンケート〈個別型・語学科目〉

本学の自己評価委員会ではより良い授業を目指して全学的な取り組みを始めました。このアンケートはその一環として実施するものです。回答内容は授業の改善に役立てるためのものであり、それ以外に使われることはありません。率直なご意見をお寄せ下さい。

3枚目の回答用紙に記入の上、回答用紙のみを提出して下さい。

I あなた自身についてお尋ねします。

- (1) 入学年度はいつですか。(学生番号の最初の2桁)
①97年 ②96年 ③95年 ④94年 ⑤93年以前
- (2) どの学科・課程に所属していますか。
①経済学科 ②商学科 ③企業法学科 ④社会情報学科
⑤商業教員養成課程 ⑥未定
- (3) どのコースに所属していますか。
①昼間コース ②夜間主コース

II 語学クラスの選択理由についてお尋ねします。

- (1) なぜこの語学クラスを選択しましたか。
①必修科目・選択必修科目であるため ②専門の勉強に必要と考えたため
③シラバス(授業計画を記載した冊子)を読み、興味をもったため
④授業時間割の関係でとらざるをえなかったため ⑤その他_____

III 学習態度についてお尋ねします。

- (1) あなたはこの授業にどの位出席しましたか。
①ほぼ100%出席した ②80%位出席した ③50%位出席した
④30%位出席した ⑤ほとんど出席しなかった
- (2) 欠席した主な理由は何ですか。
①病気のため ②教育実習・短期海外留学のため ③サークル活動のため
④アルバイトのため ⑤自己の怠惰のため ⑥その他_____
- (3) 学生(あなた自身および他の学生)の学習態度は全体として熱心であったと思いますか。
①非常に熱心であった ②かなり熱心であった ③どちらともいえない
④あまり熱心でなかった ⑤熱心でなかった
- (4) 学生の学習態度について、どのような点を改善すべきであると思いますか。

(5) 語学の授業には予習重視型と復習重視型があり、いずれにせよ授業時間外の学習が欠かせませんが、その学習を行いましたか。

- ①毎回、十分に行った ②ほぼ毎回、行った ③ときどき行った
④ごくまれにしか行わなかった ⑤ほとんど行わなかった
- (6) 前問で④または⑤と回答した方にお尋ねします。なぜ予習または復習を行わなかったのですか。
①自己の怠慢のため ②サークル活動のため ③アルバイトのため
④必要を感じなかったため ⑤その他_____

IV 授業の満足度についてお尋ねします。

(1) 「読む・書く・聴く・話す」という語学の4技能のバランスのとれた習得という点から判断して、この授業にどの程度満足できましたか。

- ①非常に満足できた ②かなり満足できた ③どちらともいえない
④やや不満であった ⑤非常に不満であった

(2) この授業はどのような点が良かったですか。(複数回答可)

- ①授業がわかりやすかった ②言語に対する関心を高めてくれた ③練習が楽しかった
④まじめに授業をしてくれた ⑤その他 _____

(3) この授業はどのような点が良くなかったですか。(複数回答可)

- ①授業がわかりにくかった ②興味をもたせる工夫が不足していた
③練習が単調すぎた ④休講が多かった ⑤その他 _____

V 授業内容についてお尋ねします。

(1) 語学の習得を目指す授業では、通常、説明と練習が二本柱となりますが、その配分は適切でしたか。

- ①非常に適切であった ②かなり適切であった ③どちらともいえない
④やや不適切であった ⑤非常に不適切であった ⑥出席不足のためわからない

(2) 授業内容は興味深いものでしたか。

- ①非常に興味深かった ②かなり興味深かった ③どちらともいえない
④それほど興味深くなかった ⑤まったく興味深くなかった ⑥出席不足のためわからない

(3) 授業内容は量的に適切でしたか。

- ①非常に多すぎた ②やや多すぎた ③適量であった
④やや少なすぎた ⑤きわめて少なすぎた ⑥出席不足のためわからない

(4) 授業内容は当初の授業計画等に沿ったものでしたか。

- ①ほぼ沿ったものであった ②80%位沿ったものであった ③50%位沿ったものであった
④30%位沿ったものであった ⑤ほとんど無関係であった ⑥出席不足のためわからない

VI 授業の方法についてお尋ねします。

(1) 教師の話し方は適切でしたか。

- ①非常に聞きやすかった ②かなり聞きやすかった ③どちらともいえない
④やや聞きにくかった ⑤非常に聞きにくかった

(2) テキスト、プリント等は適切に使われましたか。

- ①非常に適切であった ②かなり適切であった ③どちらともいえない
④やや不適切であった ⑤非常に不適切であった

(3) 黒板、OHP、ビデオ装置等の使い方は適切でしたか。

- ①非常に適切であった ②かなり適切であった ③どちらともいえない
④やや不適切であった ⑤非常に不適切であった

(4) 教師は学生の反応を見ながら授業を進めていましたか。

- ①絶えず注意を払っていた ②かなり注意を払っていた ③どちらともいえない
④あまり注意を払っていなかった ⑤まったく注意を払っていなかった

VII その他、授業等について改善して欲しい点、または良かった点等を自由にお書き下さい。

授業改善のためのアンケート〈個別型・実技・実習科目〉

本学の自己評価委員会ではより良い授業を目指して全学的な取り組みを始めました。このアンケートはその一環として実施するものです。回答内容は授業の改善に役立てるためのものであり、それ以外に使われることはありません。率直なご意見をお寄せ下さい。

3枚目の回答用紙に記入の上、回答用紙のみを提出して下さい。

I あなた自身についてお尋ねします。

(1) 入学年度はいつですか。(学生番号の最初の2桁)

- ①97年 ②96年 ③95年 ④94年 ⑤93年以前

(2) どの学科・課程に所属していますか。

- ①経済学科 ②商学科 ③企業法学科 ④社会情報学科
⑤商業教員養成課程 ⑥未定

(3) どのコースに所属していますか。

- ①昼間コース ②夜間主コース

II 授業科目の選択理由についてお尋ねします。

(1) なぜこの授業科目を選択しましたか。

- ①必修科目・選択必修科目であるため ②専門の勉強に必要と考えたため
③シラバス(授業計画を記載した冊子)を読み、興味をもったため
④授業時間割の関係でとらざるをえなかったため ⑤その他 _____

III 学習態度についてお尋ねします。

(1) あなたはこの授業にどの位出席しましたか。

- ①ほぼ100%出席した ②80%位出席した ③50%位出席した
④30%位出席した ⑤ほとんど出席しなかった

(2) 欠席した主な理由は何ですか。

- ①病気のため ②教育実習・短期海外留学のため ③サークル活動のため
④アルバイトのため ⑤自己の怠惰のため ⑥その他 _____

(3) 学生(あなた自身および他の学生)の学習態度は全体として熱心であったと思いますか。

- ①非常に熱心であった ②かなり熱心であった ③どちらともいえない
④あまり熱心でなかった ⑤熱心でなかった

(4) 学生の学習態度について、どのような点を改善すべきであると思いますか。

(5) 授業の予習または復習として、授業時間外の学習を行いましたか。

- ①毎回、十分に行った ②ほぼ毎回、行った ③ときどき行った
④ごくまれにしか行わなかった ⑤ほとんど行わなかった

(6) 前問で④または⑤と回答した方にお尋ねします。なぜ予習または復習を行わなかったのですか。

- ①自己の怠慢のため ②サークル活動のため ③アルバイトのため
④必要を感じなかったため ⑤その他 _____

IV 授業の満足度についてお尋ねします。

- (1) 総合的に判断して、この授業にどの程度満足できましたか。
- ①非常に満足できた ②かなり満足できた ③どちらともいえない
④やや不満であった ⑤非常に不満であった
- (2) この授業はどのような点が良かったですか。(複数回答可)
- ①授業がわかりやすかった ②知的関心を高めてくれた ③練習が楽しかった
④まじめに授業をしてくれた ⑤その他 _____
- (3) この授業はどのような点が良くなかったですか。(複数回答可)
- ①授業がわかりにくかった ②興味をもたせる工夫が不足していた
③練習が単調すぎた ④休講が多かった ⑤その他 _____

V 授業内容についてお尋ねします。

- (1) 実技・実習の習得を目指す授業では、通常、説明と練習が二本柱となりますが、その配分は適切でしたか。
- ①非常に適切であった ②かなり適切であった ③どちらともいえない
④やや不適切であった ⑤非常に不適切であった ⑥出席不足のためわからない
- (2) 授業内容は興味深いものでしたか。
- ①非常に興味深かった ②かなり興味深かった ③どちらともいえない
④それほど興味深くなかった ⑤まったく興味深くなかった ⑥出席不足のためわからない
- (3) 授業内容は量的に適切でしたか。
- ①非常に多すぎた ②やや多すぎた ③適量であった
④やや少なすぎた ⑤きわめて少なすぎた ⑥出席不足のためわからない
- (4) 授業内容は当初の授業計画等に沿ったものでしたか。
- ①ほぼ沿ったものであった ②80%位沿ったものであった ③50%位沿ったものであった
④30%位沿ったものであった ⑤ほとんど無関係であった ⑥出席不足のためわからない

VI 授業の方法についてお尋ねします。

- (1) 教師の話し方は適切でしたか。
- ①非常に聞きやすかった ②かなり聞きやすかった ③どちらともいえない
④やや聞きにくかった ⑤非常に聞きにくかった
- (2) テキスト、プリント等は適切に使われましたか。
- ①非常に適切であった ②かなり適切であった ③どちらともいえない
④やや不適切であった ⑤非常に不適切であった
- (3) 使用された用具等は適切でしたか。
- ①非常に適切であった ②かなり適切であった ③どちらともいえない
④やや不適切であった ⑤非常に不適切であった
- (4) 教師は学生の反応を見ながら授業を進めていましたか。
- ①絶えず注意を払っていた ②かなり注意を払っていた ③どちらともいえない
④あまり注意を払っていなかった ⑤まったく注意を払っていなかった

VII その他、授業等について改善して欲しい点、または良かった点等を自由にお書き下さい。

授業改善のためのアンケート回答用紙

I

(1) 入学年度 (2) 所属学科 (3) コース

II

(1) 回答が⑤の場合

III

(1) (2) 回答が⑥の場合

(3)

(4) _____

(5) (6) 回答が⑤の場合

IV

(1) (2) 回答が⑤の場合

(3) 回答が⑤の場合

V

(1) (2) (3) (4)

VI

(1) (2) (3) (4)

VII その他、授業等について改善して欲しい点、または良かった点等を自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

個別型アンケート集計表

授業科目 記入欄 (○をつけてください)	所属 学科等	経済・商・企業法・社会情報 一般教育等・言語センター
	コース別	昼間コース科目・夜間主コース科目

I

(1)		①	②	③	④	⑤
	回答数					

(2)		①	②	③	④	⑤	⑥
	回答数						

(3)		①	②
	回答数		

II

(1)		①	②	③	④	⑤
	回答数					

III

(1)		①	②	③	④	⑤
	回答数					

(2)		①	②	③	④	⑤	⑥
	回答数						

(3)		①	②	③	④	⑤
	回答数					

(5)		①	②	③	④	⑤
	回答数					

(6)		①	②	③	④	⑤
	回答数					

IV

(1)		①	②	③	④	⑤
	回答数					

(2)		①	②	③	④	⑤
	回答数					

(3)		①	②	③	④	⑤
	回答数					

V

(1)		①	②	③	④	⑤	⑥
	回答数						

(2)		①	②	③	④	⑤	⑥
	回答数						

(3)		①	②	③	④	⑤	⑥
	回答数						

(4)		①	②	③	④	⑤	⑥
	回答数						

VI

(1)		①	②	③	④	⑤
	回答数					

(2)		①	②	③	④	⑤
	回答数					

(3)		①	②	③	④	⑤
	回答数					

(4)		①	②	③	④	⑤
	回答数					

参考資料 2

授業評価質問票

経済学科

記入上のお願ひ

- 授業の改善を目的として、この調査を行います。氏名・学生番号など個人を判明させる情報は記入しないで下さい。なお、カードの学生番号欄(5桁)では、「99999」以外の任意の数字をマークして下さい。
- 各質問について、適当と考える選択肢を1つ選び、その数字をカード(A1-A25の各欄)に鉛筆でマークして下さい。
- 質問5以下では、“5”が強い肯定、“1”が強い否定を示すように、5段階での評価を行って下さい。
- この科目には該当しないと思われる質問があれば、評価せずに次の質問へ進んでください。

A. あなたについて

- 私は、(1, 2, 3, 4)年次生です。
- この科目の教科書・参考書に費やした費用は、
 - ¥1,000未満
 - ¥1,000以上¥2,000未満
 - 2,000以上¥3,000未満
 - ¥3,000以上¥4,000未満
 - ¥4,000以上
- この科目に費やした1週間当たりの平均学習時間は、
 - 1時間未満
 - 1-3時間
 - 4-6時間
 - 7-9時間
 - 10時間以上
- 私は、この科目の講義に
5. ほとんどすべて 4. 2/3ほど 3. 1/2ほど 2. 1/3ほど 1. 数回
出席しました。

B. 教授法・講義内容について

- 教官の説明は、明快でよく理解できました。 5 4 3 2 1
- 教官の話は、よく聞きとれました。 5 4 3 2 1
- 板書・OHP等による説明はわかりやすく感じました。 5 4 3 2 1
- 教官は、学生の質問に対して丁寧に答えました。 5 4 3 2 1
- 教官は、講義の題材を十分に把握していました。 5 4 3 2 1
- 年度当初に配布されたシラバス(授業計画)は、役に立ちました。 5 4 3 2 1
- この科目の主題は、関心をひくものでした。 5 4 3 2 1
- 用いられた数字は、理解の範囲内でした。 5 4 3 2 1
- 履修前に比べて、この科目の内容に関心をもちようになりました。 5 4 3 2 1
- 教官は、この科目に熱意をもっていました。 5 4 3 2 1
- 教官には、ユーモアのセンスが感じられました。 5 4 3 2 1
- 講義の進度は適切でした。 5 4 3 2 1
- この科目の内容は、卒業後役立つと思う。 5 4 3 2 1

C. 教科書・配布資料について

- 教科書は、役に立ちました。 5 4 3 2 1
- 教科書の説明は、わかりやすいものでした。 5 4 3 2 1
- 講義は、教科書の内容を解説・補完していました。 5 4 3 2 1
- 配布されたプリントは、講義内容の理解に役立ちました。 5 4 3 2 1

D. 試験・クイズ等について

- この科目でこれまでに実施してきた試験・クイズ等の内容は、適切でした。 5 4 3 2 1
- この科目でこれまでに実施してきた試験・クイズ等の採点は、公正でした。 5 4 3 2 1

E. 全般的評価

- 私は、この科目で多くを学びました。 5 4 3 2 1
- この科目への期待は、満たされました。 5 4 3 2 1

F. 関連するコメントがあれば、カードの裏面に書いて下さい。